領 域	基礎分野	授業科目	論理学	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	１年次	開講時期	前期	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

迅速かつ適切な判断力と明快かつ正確な伝達能力は、医療の現場では特に不可欠である。

この授業では、それらの能力の基盤となる論理的思考や表現力を学ぶ。

授業目標

推論の妥当性を支える理論の形成や構造について学び、自らの思考を検証し専門職としての科学的態度の基本を身につける。

授業概要

以下の内容を、習得状況に即して適宜組み合わせながら展開する。

〔 読む 〕

・論点の抽出と整理

さまざまなテーマの論説文や時事問題から論点を正確に読み取り、整理する。

・多角的な読解力

自分とは異なる立場の意見や主張を想定し、多角的な視点から事象を理解する。

〔 書く 〕

・文章構成力

論証を展開する上で必要とされる構成力を文章表現（論述）で練習する。

・客観性と説得力

多角的な視点から問題を照射し、判断の妥当性を検討する。また、説得力を支える論理的かつ丁寧な説明の仕方を練習する。

・表現力

語彙を増やし、正確な伝達に必要な表現力を養う。

〔 話す・伝える 〕

・伝達力

口頭での伝達に必要な明快さ、簡潔さを練習する。

・状況判断

さまざまな状況（業務報告、緊急時など）や対象（人数、年齢など）を想定し、それに応じた実践的な伝達の方法を練習する。

授業の進め方

講義、課題文（小論文)、学生作成文を題材とした討議、ディベート

教科書

毎回、教材のプリントを配付

参考図書

授業の展開内容や学生の関心に即して適宜紹介

評価方法

終講時　客観式テスト及び授業中に作成する課題文（100 点）

試験時間は時間数に含む。

領 域	基礎分野	授業科目	健康科学	単位（授業時間／時間数）	１（１４／１５）
開講年次	１年次	開講時期	前期	授業回数	７回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

健康の概念について学び、健康レベルや対象の成長発達段階に応じた保健医療活動について理解する。身体活動の楽しさに触れ、生涯を通じて運動を楽しむ態度・方法を学ぶ。

授業目標

各ライフステージにおける成長発達過程を理解し、それぞれに合わせた運動指導を行う。

授業概要

1. 理論（各ライフステージにおける成長発達過程）
   - ・健康の概念、健康の段階
   - ・国民健康づくり対策
   - ・保健行動、運動処方

   1）乳幼児期の心と体
   2）学童期の心と体
   3）思春期・青年期・成人期の心と体
   4）老年期の心と体
2. 実践
   1）乳幼児期・学童期への運動処方（手遊び・歌・体操）
   2）思春期・青年期・成人期の運動処方（ニュースポーツ）
   3）老年期の運動処方（ルールの作り変え）

授業の進め方

理論と実践を交互に取り入れて進めていく

教科書

コメディカルのための専門基礎分野テキスト　人間発達学（中外医学社）

参考図書

評価方法

期末レポート（40 点）、実技テスト（30 点）、授業への取り組み（30 点）

試験時間は時間数に含む。

領 域	基礎分野	授業科目	情報科学	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	１年次	開講時期	後期	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

IT 社会において必要とされるコンピュータの基本原理について理解するとともに、コンピュータと情報技術に関する知識、実践力を身につける。

授業目標

コンピュータの基本原理について理解すると共に、情報技術に関する知識、実践力を身につけ学生の学習活動や看護の分野でも大変有効な道具として、コンピュータを使いこなすことを目標とする。

授業概要

1. コンピュータの基礎
2. Windows の基本操作（OS の概要、ファイル管理）
3. Word の基礎　文章の入力
4. Word の基礎　文章作成
5. Word の応用　表計算、文書装飾
6. Excel の基礎　データ入力
7. Excel の基礎　計算式、関数
8. Excel の応用　グラフ、データベース
9. インターネット活用
10. 実習問題
11. 情報倫理について

授業の進め方

講義、演習

教科書

医療従事者のための情報リテラシー（日経 BP マーケティング）

2GB 程度の USB を各自準備しておく。

参考図書

評価方法

定期試験、提出物、出欠状況、授業態度を総合的に判断する。

試験時間は時間数に含む。

領 域	基礎分野	授業科目	心理学	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	１年次	開講時期	前期	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

心理学全般について概観し、看護師を目指す学生としてより深い人間理解や自己理解ができることを目指す。

授業目標

１．多様な価値観を持つ人間の心の動きや行動について理解し、看護の対象となる人々を総合的に理解する基礎的能力を養う。

２．自らの精神的健康やそれに関連する身体的健康に関心を持ち、自己理解を深められるよう体験的な理解を重視した学びの機会となる。

授業概要

１．人間の心を理解するための基礎的な内容；
個人と集団の心理や、行動の仕組みとその背景、人間関係の基本的なことがらなどについて学ぶ。

２．医療場面での人間理解の展開；
臨床心理学をはじめとして、看護場面で実践的に活用できる心理学の方法や考え方について学ぶ。

例えば…

・心理学とは何か？
・脳はどのように働くか
・記憶について
・感情について
・発達の心理
・社会・集団の心理
・臨床心理学の基礎とカウンセリング、心理療法　　etc.

授業の進め方

グループワークやビデオ学習、レポートにより思索を深めさせ、学生の理解状況や関心等に応じて講義内容を組み立てて進めていく。積極的な参加を求める。

教科書

ひと目でわかる 心のしくみとはたらき図鑑（創元社）

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

評価方法

終講時 客観的テスト：80 点、レポート・授業への参加態度など：20 点
以上を総合的に判断して評価する。
試験時間は時間数に含む。

領 域	基礎分野	授業科目	成長発達論	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	１年次	開講時期	後期	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

人間の一生を発達のプロセスとしてとらえ、人のライフサイクルにおける各ステージについて、身体的・知的・情緒的・社会的などの多様な側面から学ぶ。

『エリクソンの発達の 8 段階』を中心に、こどもの健やかな成長、青年、成人、高齢になってからの実りある生を論じる。

授業目標

人間のライフサイクルを理解し、各期における成長、発達の特徴、課題、問題発生の対処法などについての基礎的能力を養う。

授業概要

1. 人間と発達
2. 発達理論とその歴史的展開
3. 乳児期の心と身体
4. 学童期の心と身体
5. 思春期の心と身体
6. 青年期の心と身体
7. 成人期の心と身体
8. 老年期の心と身体
9. 各ステージにおける課題と演習

授業の進め方

講義、演習、ビデオ学習

教科書

手にとるように発達心理学がわかる本（かんき出版）

参考図書

評価方法

授業時レポート 及び 終講時 客観式テスト（100 点）

試験時間は時間数に含む

領 域	基礎分野	授業科目	人間関係論	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	１年次	開講時期	後期	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

この授業では、人と人との「あいだ」にスポットを当て、目には見えない「関係」というものについて考えていくこと。また、「自己理解＆他者理解」を一つのテーマとして、人間関係能力を向上させ、学生が様々な対人関係の悩みに対処できる方法を見出せるようにしていくこと。

授業目標

看護の専門家として必要とされる援助的人間関係の基礎知識とコミュニケーションスキルを学び、臨床看護場面で活用できる。

授業概要

1. 人間と人間関係
2. 自己理解と他者理解
3. 自己開示
4. コミュニケーション
5. 人間関係の歪み
6. 援助的人間関係
7. チームの人間関係

授業の進め方

講義、グループワーク、ディスカッション

教科書

系統看護学講座　基礎分野　人間関係論（医学書院）

参考図書

必要に応じ随時紹介する。

評価方法

筆記試験、レポート、授業態度

試験時間は時間数に含む。

領 域	基礎分野	授業科目	倫理学	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	１年次	開講時期	後期	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

将来、看護師として患者さんの生や死に直接関わっていくとき、適切な判断のもとでケアにあたっていけるようになるよう、医療のなかで目指すべき、また考慮されるべき価値について学ぶ。

授業目標

医療上の倫理問題から、考え方について特に対立が生じている代表的事例を検討する。
それぞれの事例で、現在おおむね採用されている対処方法について学ぶ。
なぜそうした対処方法が取られているのか、その意味を考察する。

授業概要

インフォームド・コンセント ／ 安楽死・尊厳死
終末期医療 ／ 臓器移植と脳死
人工妊娠中絶 ／ 出生前診断
生殖補助医療 ／ 医療資源の配分
医療倫理の原理 ／ 看護師の職業倫理　など

授業の進め方

講義
自宅で復習し考えたことを授業で発表してもらう。

教科書

はじめて出会う生命倫理　玉井 真理子・大谷 いづみ編（有斐閣）

参考図書

入門・医療倫理Ⅰ　赤林朗 編（勁草書房）その他、授業で適宜紹介

評価方法

試験と平素の学習状況によって評価。
試験時間は時間数に含む。

領 域	基礎分野	授業科目	教育学	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	１年次	開講時期	後期	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

「教育」の社会における意義を理解し、それを通じて看護にたずさわる者として求められる人間と社会への洞察を深める。

授業目標

1. 教育と学習という教育の原理について理解する。
2. 家庭、地域などで行われる教育の歴史と現状を理解する。
3. 教育の現代的課題について考察する。

授業概要

以下に示すテーマに沿って講義を進める予定であるが、受講者の興味関心に応じて、適時テーマを考える。

1. オリエンテーション ― 講義中の注意、評価方法など
2. 教育とは何か
3. 教育と人権
4. 学校教育（1）
5. 学校教育（2）
6. 教育評価
7. 教師の仕事
8. 社会教育と生涯学習
9. 家庭教育と学校教育
10. 特別支援教育（1）
11. 特別支援教育（2）
12. 教育の現代的課題（1）
13. 教育の現代的課題（2）
14. まとめ

授業の進め方

配布資料に沿って、社会でみられる様々な教育場面について、その意義と問題点を考察する。

受講者には議論や発表、レポートなど積極的な参加を求める。

教科書

特になし

参考図書に基づいて、適時講師が資料を用意

参考図書

系統看護学講座　基礎分野　教育学　大浦猛編（医学書院）

評価方法

定期試験、発表、レポートなどによって総合的に判断する。

試験時間は時間数に含む。

領 域	基礎分野	授業科目	家族社会学	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	１年次	開講時期	前期	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

社会情勢が大きく変化する中で、個々の人間にとって家族とは何か、社会にとって家族とは何かを理解し、家族内の主要な諸関係を理解する。また、社会の組織、構造上の特徴を学ぶ。

授業目標

基礎集団である家族の機能や構造について理解し、現代における家族の変化について学ぶ。

授業概要

1. 社会と集団
   1）社会とはなにか
   2）基礎社会と機能集団
2. 少子化と高齢化
   1）少子高齢化の原因
   2）少子高齢化の家族への影響と対策
3. 家族
   1）家族の出来方
      ① 配偶者選択課程
      ② 子どもの教育と社会化（コールバーグの道徳感情論）
      ③ ライフサイクル
   2）家族の機能と構造
   3）単身赴任者、家族と世帯
      老親の扶養（特に高齢者介護）
   4）「いえ」制度の家族と「核家族」
   5）家父長制
   6）親族ネットワーク
   7）ハーシーの統制理論と少年非行と家族関係
4. 人間の脳化現象と家庭内暴力、児童・高齢者・障害者に対する虐待について

授業の進め方

講義（資料、参考文献、学生へのアンケート調査をふまえて進めていく）
テーマを与えて考慮する時間を設ける

教科書

資料活用

参考図書

評価方法

終講時客観テスト及び出席・授業態度を総合的に評価する（100 点）
毎回の授業態度、授業に真摯に向き合わない者については平常点を減点する
試験時間は時間数に含む

領 域	基礎分野	授業科目	文化人類学	単位（授業時間／時間数）	１（１４／１５）
開講年次	１年次	開講時期	後期	授業回数	７回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

本講義では、家族・ジェンダー・儀礼・宗教・医療・死などをテーマに、文化人類学の入門として基礎的な知識を学習する。授業で学んだことを、受講生自身の経験や身のまわりの事がらと関連づけて考えることができるように、身近なトピックなど具体的な例を挙げながら説明する。講義を通して、文化人類学の視点から日常の文化現象を捉えなおすことができるようになること、文化の多様性を理解し、他者を理解しようとする姿勢を持つようになることが、本講義のねらいである。

授業目標

文化人類学の基礎的な知識を学ぶと同時に、その知識を通して日常の文化現象を考察することができるようになる。また、文化の多様性を理解し、他者を理解する姿勢を持つ。

授業概要

1. 「文化」とは何かー文化人類学と文化相対主義
2. 家族の成り立ちと家族を越えたつながりー家族と親族
3. 文化と出産ー身体・医療
4. 大人になること、男／女になることー人生と通過儀礼
5. 「宗教」を考えるー宗教と世界観
6. 人は死をどう考えてきたかー人間と死
7. 文化人類学とフィールドワークー現地から考える／現地で考える

授業の進め方

講義を中心に授業を進める。

教科書

系統看護学講座　基礎分野　文化人類学　波平恵美子編（医学書院）

適宜プリントを配布。

参考図書

評価方法

終講時 客観的テスト（80%）、授業への参加態度など（20%）

試験時間は時間数に含む。

領 域	基礎分野	授業科目	生活科学	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	１年次	開講時期	前期	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

人間の生活において、精神的・経済的に大きな影響を与える家庭生活、健康で快適な生活をおくるために重要な衣食住の知識を身につけ、看護における日常生活の援助技術の基礎を学ぶ。

授業目標

人間生活の基盤としての家庭生活、よりよい生活環境のあり方を科学的にとらえ、看護に活用できる能力を身につける。

授業概要

1. 家庭生活と家庭経済
2. 食生活
   1）生活と食事、食事形態
   2）身体機能と栄養
   3）食生活と健康
   4）食品の選択、管理
3. 衣生活
   1）衣服の役割と機能
   2）衣服の素材と表示
   3）洗濯と管理
4. 住生活
   1）住居の役割と機能
   2）生活空間
   3）室内環境
   4）住居の安全と管理

授業の進め方

講義

教科書

参考図書

評価方法

終講時　客観式テスト（100 点）

授業中の提出物、態度、試験により評価する。

試験時間は時間数に含む。

領 域	基礎分野	授業科目	英語Ⅰ	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	１年次	開講時期	前期	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

増加してきた外国人の患者さんとコミュニケーションがとれるようにすることと、医療現場で使用される可能性のある医療・看護の専門英語を習得する。

授業目標

医療に関する英単語及び基本的英語表現を習得し、外国人患者さんに的確な対応ができるようにする。

授業概要

1. 教材の説明、授業の受け方
   Unit 1.　Is this your first visit to this hospital？
   この病院へは初めてですか？(初診の受付)
2. Unit 2.　What's the matter？
   どうされましたか？（症状を聞く・身体外部の名称）
3. Unit 3.　You need to go to dermatology.
   皮膚科医に行く必要がありますね。(診療科)
4. Unit 4.　Let me direct you to radiology. 放射線科へご案内しましょう。(院内案内)
5. Unit 5.　Let's check your height and weight. 身長と体重を測りましょう。(健康診断)
6. Unit 6.　I need to ask you some question.　いくつかお尋ねします。(病歴)
7. Unit 7.　Can you describe the pain？　どんな痛みか言えますか？(痛みと怪我)
8. Unit 8.　Rest your arm on the armrest.
   腕をアームレストに乗せて下さい。(診察・検査時の指示)
9. Unit 9.　Please make a follow-up appointment.　次回の予約をして下さい。(受診の予約)
10. Unit 10.　Take this medicine after meals.　食後にこの薬を飲んで下さい。(与薬)
11. Unit 11.　Your operation will be this afternoon.　手術は今日の午後です。(手術)
12. Unit 12.　Are you feeling more comfortable now？気分がよくなりましたか？(情報・説明)
13. Unit 13.　This is an emergency.　こちらは救急です。(救急医療)
14. Unit 14.　Tests show you have high sugar lebels.　検査では血糖値が高いです。(検査)
15. 復習

授業の進め方

テキストに沿って進める。補助教材としてプリント教材を使用する。

講師の説明と学生の発表形式、ペアやグループでの会話演習で授業を進めていく。

習熟度確認のために小テストをする。

教科書

English for Nurses 看護系学生のための実践英語(改訂版)　山中マーガレット　朝日出版社

参考図書

評価方法

定期試験の成績　客観式テスト（100 点）

試験時間は時間数に含む。

領 域	基礎分野	授業科目	英語Ⅱ	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	１年次	開講時期	前期	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

英語を聞き話すことが苦にならず、自信を持ってできるようにする。

授業目標

医療現場で日常的に使用される基礎的英会話を身につける。

授業概要

1. Unit1＆2: Self Introduction
2. Unit3: Getting Personal Information
3. Unit4: What department do you want?
4. Unit5: Where is the X-Ray Department?
5. Unit6: What are you symptoms?
6. Unit6: Symptoms Review
7. Unit6: Symptoms Review
   Unit7: Where does it hurt? Vocabulary
8. Unit7: Body vocabulary Review
   Unit8: Have you ever had any serious illness?
9. Unit8: Admission Form Review
   Body Vocabulary Review
10. Admission Form Review
    Unit9: Explain Medicine
11. Unit10: Let's make an appointment
12. Unit12: Bedside English
    Instruction for Tests
13. Review
14. Review for Test

授業の進め方

テキスト ＋ 小テスト

教科書

クリスティーンのやさしい看護英会話（医学書院）

参考図書

評価方法

客観式テスト（100 点）

試験時間は時間数に含む。

領 域	専門基礎分野	授業科目	解剖生理学Ⅰ	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	１年次	開講時期	前期	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

看護は医療を担う重要な仕事である。適切な良い看護を行うためには、人の身体や疾病についての十分な知識をもつことが不可欠であり医療の質を高める上で重要である。

人体の正常な構造と機能を知ることにより、病気の成り立ちを理解し、それに対する対処の仕方を正確に知ることができる。

体は構造的に連続した器官系統でできており、機能的にはそれらの系統が互いに相関しあって高度な身体機能が営まれている。看護を学んでいく中で人間を理解する身体的側面として、人体の器官系を学ぶ。また、正常な生理機能・防御機構を学習し、看護実践の基礎となる疾患の病態生理基礎が理解できるようになる。

解剖生理学Ⅰでは、人体の細胞・組織・外部環境からの防御及び栄養・消化について教授する。

授業目標

人体における細胞・組織、外部環境からの防御について理解する。

栄養・消化・吸収のメカニズムと働きについて理解する。

授業概要

1. 解剖生理学を学ぶための基礎知識（4 時間）
   1）人体とはどのようなものか
      (1) 人体の階層性
      (2) 自然界における人類の位置
      (3) 社会のなかの人体
   2）人体の素材としての細胞・組織
      (1) 細胞の構造
      (2) 細胞を構成する物質とエネルギーの生成
      (3) 細胞膜の構造と機能
      (4) 細胞の増殖と染色体
      (5) 分化した細胞がつくる組織
   3）構造と機能からみた人体
      (1) 構造からみた人体
      (2) 機能からみた人体
      (3) 体液とホメオスタシス

2. 栄養の消化と吸収（8 時間）
   1）膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能
      (1) 膵臓
      (2) 肝臓と胆嚢の構造
      (3) 肝臓の機能

3. 栄養の消化と吸収（16 時間）

1）口・咽頭・食道の構造と機能

（1）咽頭と食道の構造と機能

2）腹部消化管の構造と機能

（1）胃の構造

（2）小腸の構造

（3）大腸の構造

（4）胃における消化

（5）小腸における消化

（6）栄養素の消化と吸収

（7）大腸の機能

3）腹膜

（1）腹膜と腸間膜

（2）腹膜と内臓の位置関係

（3）胃の周辺の間膜

授業の進め方

講義

教科書

系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　人体の構造と機能〔1〕（医学書院）

参考図書

からだの地図帳　新版（講談社）

評価方法

終講時　客観式テスト（100 点）

試験時間は時間数に含む

領 域	専門基礎分野	授業科目	解剖生理学Ⅱ	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	１年次	開講時期	通年	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

看護は医療を担う重要な仕事である。適切な良い看護を行うためには、人の身体や疾病についての十分な知識をもつことが不可欠であり医療の質を高める上で重要である。

人体は構造的に連続した器官系統でできており、機能的にはそれらの系統が互いに相関しあって高度な身体機能が営まれている。看護を学んでいく中で人間を理解する身体的側面として、人体の器官系を学ぶ。また、正常な生理機能・防御機構を学習し、看護実践の基礎となる疾患の病態生理基礎が理解できるようになる。

解剖生理学Ⅱでは、呼吸器、内分泌、腎・泌尿器のメカニズムと働きについて教授する。

授業目標

呼吸器の構造と働きについて理解する。

内分泌の構造と働きについて理解する。

腎・泌尿器の構造と働きについて理解する。

授業概要

1. 呼吸と血液のはたらき（14 時間）
    1）呼吸器の構造
    2）ガス交換とガスの運搬
        (1) 肺におけるガス交換
        (2) 吸気・呼気のガス組成と血液ガス
        (3) 酸素の運搬
        (4) 二酸化炭素の運搬
    3）呼吸運動の調節
        (1) 呼吸の神経性調節
        (2) 化学受容器
        (3) 肺の伸展受容器を介する反射
        (4) 呼吸運動の異常と病的呼吸

2. 内臓機能の調節（8 時間）
    1）内分泌系による調節
        (1) 内分泌とホルモン
        (2) ホルモンの化学構造と作用機序
    2）全身の内分泌腺と内分泌細胞
        (1) 視床下部 ― 下垂体系
        (2) 甲状腺と副甲状腺
        (3) 膵臓
        (4) 副腎
        (5) 性腺
        (6) その他の内分泌腺

3）ホルモン分泌の調節

4）ホルモンによる調節の実際

（1）ホルモンによる糖代謝の調節

（2）ホルモンによるカルシウム代謝の調節

（3）ストレスとホルモン

（4）乳房の発達と乳汁分泌

（5）高血圧をきたすホルモン

3．体液の調節と尿の生成（6 時間）

1）腎臓

（1）腎臓の構造と機能

（2）糸球体の構造と機能

（3）尿細管の構造と機能

（4）傍糸球体装置

（5）クリアランスと糸球体濾過量

（6）腎臓から分泌される生理

2）排尿路

（1）排尿路の構造

（2）尿の貯蔵と排尿

3）体液の調節

（1）水の出納

（2）脱水

（3）電解質の異常

（4）酸塩基平衡

授業の進め方

講義

教科書

系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　人体の構造と機能〔1〕（医学書院）

参考図書

からだの地図帳　新版（講談社）

評価方法

終講時　客観式テスト（100 点）

試験時間は時間数に含む

領 域	専門基礎分野	授業科目	解剖生理学Ⅲ	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	１年次	開講時期	通年	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

看護は医療を担う重要な仕事である。適切な良い看護を行うためには、人の身体や疾病についての十分な知識をもつことが不可欠であり医療の質を高める上で重要である。

人体は構造的に連続した器官系統でできており、機能的にはそれらの系統が互いに相関しあって高度な身体機能が営まれている。看護を学んでいく中で人間を理解する身体的側面として、人体の器官系を学ぶ。また、正常な生理機能・防御機構を学習し、看護実践の基礎となる疾患の病態生理基礎が理解できるようになる。

解剖生理学Ⅲでは、循環器、血液・造血器のメカニズムと働きについて教授する。

授業目標

循環器の構造と働きについて理解する。

血液・造血器のメカニズムと働きについて理解する。

授業概要

1. 血液の循環とその調節（24 時間）
   1）循環器系の構成
   2）心臓の構造
      (1) 心臓の位置と外形
      (2) 心臓の４つの部屋と４つの弁
      (3) 心臓壁
      (4) 心臓の血管と神経
   3）心臓の拍出機能
      (1) 心臓の興奮とその伝播
      (2) 心電図
      (3) 心臓の収縮
   4）末梢循環系の構造
      (1) 血管の構造
      (2) 肺循環の血管
      (3) 全身の動脈
      (4) 全身の静脈
   5）血液の循環の調節
      (1) 血圧（動脈圧）
      (2) 血液の循環
      (3) 血圧・血流量の調節
      (4) 微小循環
      (5) 循環器系の病態生理

6）リンパとリンパ管

（1）リンパ管の構造

（2）リンパの循環

2．血液のはたらき（4 時間）

1）血液

（1）血液の組成と機能

（2）赤血球

（3）白血球

（4）血小板

（5）血漿タンパク質と赤血球沈降

（6）血液の凝固と繊維素溶解

（7）血液型

授業の進め方

講義

教科書

系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　人体の構造と機能〔1〕（医学書院）

参考図書

からだの地図帳　新版（講談社）

評価方法

終講時　客観式テスト（100 点）

試験時間は時間数に含む。

領 域	専門基礎分野	授業科目	解剖生理学Ⅳ	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	１年次	開講時期	後期	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

看護は医療を担う重要な仕事である。適切な良い看護を行うためには、人の身体や疾病についての十分な知識をもつことが不可欠であり医療の質を高める上で重要である。

人体は構造的に連続した器官系統でできており、機能的にはそれらの系統が互いに相関しあって高度な身体機能が営まれている。看護を学んでいく中で人間を理解する身体的側面として、人体の器官系を学ぶ。また、正常な生理機能・防御機構を学習し、看護実践の基礎となる疾患の病態生理基礎が理解できるようになる。

解剖生理学Ⅳでは、骨格筋・筋、脳神経、感覚器のメカニズム、生殖器の働きについて教授する。

授業目標

神経系の構造と働きについて理解できる。

骨格と骨格筋の構造と働きについて理解できる。

感覚器・生殖器の構造と働きについて理解できる。

授業概要

1. 情報の受容と処理…脳・神経（22 時間）
    1）神経系の構造と機能
    2）脊髄と脳
    3）脊髄神経と脳神経
    4）脳の高次機能
    5）運動機能と下行伝導路
    6）感覚機能と上行伝導路
    7）疼痛（痛み）
2. 内臓機能の調節
    1）自律神経による調節
3. からだの支持と運動
    1）骨格とはどのようなものか
    2）骨の連結
    3）骨格筋
    4）体幹の骨格と筋
    5）上肢の骨格と筋
    6）下肢の骨格と筋
    7）頭頸部の骨格と筋
    8）筋の収縮
4. 体表からみた人体構造
5. 生殖・発生と老化のしくみ（2 時間）
    1）男性生殖器
        (1）精巣（睾丸）
        (2）精路（生殖器）と付属生殖腺

（3）男性の外陰部
（4）男性の生殖機能
2）女性生殖器
（1）卵巣
（2）卵管・子宮・膣
（3）女性の外陰部と会陰
（4）乳腺
（5）女性の生殖機能
3）受精と胎児の発生
（1）生殖細胞と受精
（2）初期発生と着床
（3）胎児と胎盤
4）成長と老化
（1）小児期の成長
（2）老化
6. 情報の受容と処理…眼（2 時間）
1）眼の構造と視覚
（1）眼球の構造
（2）眼球付属器
（3）視覚
7. 栄養と消化・吸収…歯・口腔（2 時間）
1）口・咽頭・食道の構造と機能
（1）口の構造と機能
2）味覚器と味覚

授業の進め方

講義

教科書

系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学　人体の構造と機能〔1〕（医学書院）

参考図書

からだの地図帳　新版（講談社）

評価方法

終講時　客観式テスト（100 点）

試験時間は時間数に含む。

領 域	専門基礎分野	授業科目	生化学	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	１年次	開講時期	前期	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

人体の機能、疾病の成り立ちやその回復を学ぶ上での基礎として、人体を構築している臓器、組織の構成単位である細胞の中で起こっている物質の動態（代謝）を学ばせる。

授業目標

物質の変化を通して、生命現象における化学的理解について学ぶ。

授業概要

1. 生化学を学ぶための基礎知識
2. 糖質
3. 脂質
4. タンパク質
5. 核酸
6. 水と無機質
7. ホルモン
8. 代謝のあらまし
9. 酵素
10. ビタミンと補酵素
11. 糖代謝
12. 脂質代謝
13. タンパク質代謝
14. 核酸代謝
15. ポルフィリン代謝
16. 遺伝情報
17. 先天性代謝異常

授業の進め方

講義

教科書

ナーシング・グラフィカ　人体の構造と機能〔2〕臨床生化学（メディカ出版）

参考図書

評価方法

終講時　客観式テスト（100 点）

試験時間は時間数に含む。

領 域	専門基礎分野	授業科目	病理学Ⅰ	単位（授業時間／時間数）	２（２８／３０）
開講年次	１年次	開講時期	通年	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

疾病の原因、変化、推移、転帰などを学習し、疾病の本質を理解する。

授業目標

重要な病理学的用語や代表的な疾病の病態について把握し、看護師の職務を遂行するために必要な医学的知識としての病理学を習得する。

授業概要

＜総論＞

1. 病理学の領域
2. 細胞・組織とその障害
3. 再生と修復
4. 循環障害
5. 炎症
6. 免疫とアレルギー
7. 感染症
8. 代謝異常
9. 老化と老年病
10. 新生児の病理
11. 先天異常
12. 腫瘍
13. 生命の危機

授業の進め方

講義

教科書

カラーで学べる病理学（ヌーヴェルヒロカワ）

参考図書

評価方法

終講時　客観式テスト（100 点）

試験時間は時間数に含む。

領 域	専門基礎分野	授業科目	病理学Ⅱ	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	１年次	開講時期	後期	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

業のねらい

呼吸器・循環器・血液造血器の障害において、それが生活にどのように影響を与えているかを理解し、必要な看護につなげてほしい。

授業目標

呼吸器疾患の病態生理・症状・治療・検査について理解できる。

循環器及び血液造血器疾患の病態生理・症状・治療・検査について理解できる。

授業概要

（呼吸器）（12 時間）

1. 呼吸器疾患の理解
   - 1）感染症
   - 2）間質性肺炎
   - 3）気道疾患
     - (1) 気管支喘息
     - (2) 気管支拡張症
     - (3) 慢性閉塞性肺疾患
   - 4）肺血栓塞栓症
   - 5）呼吸不全
   - 6）呼吸調節に関する疾患
     - (1) 過換気症候群
     - (2) 睡眠時無呼吸症候群
   - 7）肺腫瘍
   - 8）肺・肺血管の形成異常
     - (1) 肺分画症
     - (2) 肺動静脈瘻
   - 9）胸膜・縦隔・横隔膜の疾患
     - (1) 胸膜の疾患
     - (2) 縦隔の疾患
     - (3) 横隔膜の疾患
   - 10）肺移植
   - 11）胸部外傷
     - (1) 肋骨骨折
     - (2) 横隔膜破裂
     - (3) 肺損傷
     - (4) 気管・気管支損傷

（循環器）（10 時間）

1. 循環器疾患の理解
   - 1）虚血性心疾患

2）心不全
3）血圧異常
4）肺血栓塞栓症不整脈
5）弁膜症
6）心膜炎
7）心筋疾患
8）肺性心
9）先天性心疾患
10）動脈系疾患
11）静脈系疾患
12）リンパ系疾患
13）高脂血症

（血液・造血器）（6 時間）

1. 血液・造血器疾患の理解
   1）赤血球系の疾患
   2）白血球系の疾患
   3）リンパ網内系疾患
   4）異常タンパク血症
   5）出血性疾患

アレルギー性紫斑病	特発性血小板減少性紫斑病
血栓性血小板減少性紫斑病	血小板機能異常症
ヘパリン起因性血小板減少症	血友病
フォンーヴィルブランド病	播腫性血管内凝固症候群

授業の進め方

講義

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔2〕呼吸器（医学書院）
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔3〕循環器（医学書院）
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔4〕血液・造血器（医学書院）

参考図書

評価方法

終講時 客観式テスト（呼吸器：40 点、血液・造血器：20 点、循環器：40 点）
試験時間は時間数に含む。

領 域	専門基礎分野	授業科目	病理学Ⅲ	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	２年次	開講時期	前期	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

消化器・腎泌尿器・女性生殖器の障害において、それが生活にどのように影響を与えているかを理解し、必要な看護につなげてほしい。

授業目標

消化器疾患の病態生理・症状・治療・検査について理解する。

腎・泌尿器・生殖器疾患の病態生理・症状・治療・検査について理解する。

女性生殖器疾患の病態生理・症状・治療・検査が理解できる。

授業概要

（消化器）

1. 消化管疾患の理解（12 時間）

1）食道の疾患

（1） 食道がん　（2） 食道アカラシア　（3） 逆流性食道炎

2）胃・十二指腸疾患（多賀）

（1） 胃炎　（2） 胃・十二指腸潰瘍　（3） 胃がん

3）腸および腹膜疾患

（1） 腸炎　（2） 腹膜炎　（3） 虫垂炎

（4） ヘルニア　（5） イレウス　（6） 腸内寄生虫疾患

（7） 消化管憩室　（8） 腸管ポリープ　（9） 結腸癌、直腸癌

（10）肛門疾患

4）肝臓・胆嚢の疾患

（1） 肝炎　（2） 肝硬変症　（3） 門脈圧亢進症

（4） 肝臓がん　（5） 肝外傷　（6） 胆石症

（7） 胆のう炎および胆管炎　（8） 胆管がん

（9） 胆のうがん　（10）胆のうポリープ　（11）肝寄生虫疾患

5）膵臓の疾患

（1） 膵炎　（2） 急性腹症　（3） 腹部外傷

（腎・泌尿器）（10 時間）

1. 腎・泌尿器疾患の理解

1）腎不全

（1） 急性腎不全　（2） 慢性腎不全

2）原発性糸球体腎炎

（1） 糸球体腎炎　（2） ネフローゼ症候群

3）全身性疾患による腎障害

4）間質性腎炎

（1） 急性間質性腎炎　（2） 慢性間質性腎炎

5）腎血管性病変

（1）　腎硬化症　　（2）　腎血管性高血圧症

6）尿細管機能異常

7）妊娠腎

8）尿路・性器の感染症

9）尿路の通過障害と機能障害

10）尿路損傷および異物

11）尿路結石症

12）尿路・性器の腫瘍

13）発生・発育の異常

14）男性不妊症、勃起障害、男性性器疾患

（女性生殖器）（6 時間）

1．女性生殖器疾患の理解

1）外陰の疾患

2）膣の疾患

3）子宮の疾患

4）卵管の疾患

5）卵巣の疾患

6）骨盤腹膜および骨盤結合織の疾患

7）月経異常・月経随伴症状

8）更年期障害

9）感染症疾患

10）不妊症

11）不育症

12）避妊

13）乳腺疾患

授業の進め方

講義

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔5〕消化器（医学書院）

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔8〕腎・泌尿器（医学書院）

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔9〕女性生殖器（医学書院）

カラーで学べる病理学（ヌーヴェルヒロカワ）

参考図書

系統看護学講座　専門基礎　解剖生理学　人体の構造と機能〔1〕（医学書院）

評価方法

終講時　客観式テスト（100 点）

試験時間は時間数に含む

領 域	専門基礎分野	授業科目	病理学Ⅳ	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	２年次	開講時期	前期	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

脳神経・運動器障害及び免疫機能障害において、それが生活にどのように影響を与えているかを理解し、必要な看護につなげてほしい。

授業目標

脳神経疾患の病態生理・症状・治療・検査について理解する。

運動器疾患の病態生理・症状・治療・検査について理解できる。

アレルギー・膠原病・感染症の病態生理・症状・治療・検査について理解する。

授業概要

（脳・神経）（12 時間）

1. 脳神経疾患の理解

1）脳疾患

（1）脳疾患　（2）脊髄疾患

（3）末梢神経疾患　（4）末梢性顔面神経麻痺

（5）片側顔面けいれん

2）神経・筋疾患

（1）重症筋無力症　（2）進行性筋ジストロフィー

（3）筋緊張性ジストロフィー　（4）周期性四肢麻痺

（5）筋委縮性側索硬化症　（6）多発性筋炎・皮膚筋炎

3）脳・神経系の感染症

（1）脳炎　（2）髄膜炎　（3）神経系感染症

4）中毒

（1）一酸化炭素中毒　（2）水銀中毒　（3）鉛中毒

（4）アルコール中毒　（5）睡眠薬中毒　（6）スモン

（7）ステロイドミオパチー

5）てんかん

6）認知症

（運動器）（10 時間）

1. 運動器疾患の理解

1）先天性疾患

（1）筋性斜頸　（2）股関節脱臼　（3）内反足

2）骨折

3）脱臼

4）捻挫および打撲

5）骨・関節の炎症性疾患

（1）骨膜炎　（2）化膿性関節炎　（3）骨・関節結核

（4）変形性関節症　（5）関節リウマチ　（6）痛風　（7）強直性脊椎炎

6）骨腫瘍
7）骨系統疾患
8）代謝性骨疾患
9）筋および腱の疾患
10）麻痺性疾患
11）上肢および上肢帯の疾患
12）脊椎の疾患
13）下肢および下肢帯の疾患

（アレルギー・感染症）（6 時間）

1．アレルギー疾患の理解
1）呼吸器のアレルギー
（1）気管支喘息　（2）アレルギー性鼻炎
2）消化器のアレルギー
3）皮膚のアレルギー
4）薬物のアレルギー
5）アナフィラキシー

2．膠原病の理解
1）膠原病
（1）関節リウマチ　（2）全身性エリテマトーデス
（3）全身性硬化症　（4）血管炎症候群
（5）多発性筋炎および皮膚筋炎　（6）混合性結合組織病
2）膠原病類縁疾患
（1）抗リン脂質抗体症候群　（2）シェーグレン症候群
（3）ベーチェット病

3．感染症の理解
菌血症・敗血症・心内膜炎・中枢神経系・頭頸部・呼吸器・消化器
骨盤内・皮膚皮下組織・骨関節・性・尿路・特殊・全身ウイルス

授業の進め方

講義

教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ　成人看護学〔7〕脳・神経（医学書院）
系統看護学講座 専門分野Ⅱ　成人看護学〔10〕運動器（医学書院）
系統看護学講座 専門分野Ⅱ　成人看護学〔11〕アレルギー　膠原病　感染症（医学書院）

参考図書

評価方法

終講時　客観式テストおよびレポート（100 点）
試験時間は時間数に含む

領 域	専門基礎分野	授業科目	病理学Ⅴ	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	２年次	開講時期	前期	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師 専任教員		講師所属	福岡水巻看護助産学校	
特記事項	―			―	

授業のねらい

内分泌・代謝障害及び感覚器の障害において、それが生活にどのように影響を与えているかを理解し、必要な看護につなげてほしい。

授業目標

内分泌・代謝疾患の病態生理・症状・治療・検査について理解する。

眼・耳鼻咽喉・歯・口腔疾患の病態生理・症状・治療・検査について理解する。

授業概要

1. 内分泌・代謝疾患の理解（10 時間）
   1）視床下部-下垂体前葉系疾患
   2）視床下部-下垂体後葉系疾患
   3）甲状腺疾患
   4）副甲状腺疾患
   5）副腎疾患
   6）性腺疾患
   7）消化管ホルモン産生腫瘍
   8）内分泌疾患の救急治療

2. 代謝疾患の理解（6 時間）
   1）糖尿病
   2）肥満症とメタボリックシンドローム
   3）脂質異常症
   4）尿酸代謝障害

3. 眼疾患の理解（4 時間）
   1）屈折の異常　2）調節の異常　3）色覚の異常
   4）弱視　5）眼尉・眼球運動の異常　6）眼瞼の疾患
   7）結膜の疾患　8）涙器の疾患　9）角膜の疾患
   10）強膜の疾患　11）ぶどう膜の疾患　12）眼底の疾患
   13）水晶体の疾患　14）硝子体の疾患　15）緑内障
   16）眼球・眼窩の疾患　17）視神経・視路の疾患　18）外傷による疾患

4. 耳鼻咽喉疾患の理解（2 時間）
   1）耳疾患
   2）鼻疾患
   3）咽喉頭疾患
   4）気道・食道疾患と音声・言語障害

5. 歯科疾患の理解（4 時間）

1）歯の異常と疾患

2）歯周組織の疾患

3）齲蝕に続発する疾患

4）口腔粘膜の疾患

5）口腔領域の嚢胞

6）口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患

7）口腔領域の悪性腫瘍

8）顎骨の外傷

9）口腔領域の先天性発育異常

10）顎関節の疾患

11）唾液腺の疾患

12）神経の疾患

6. 皮膚疾患の理解（2 時間）

1）皮膚症状と病態生理

2）表在性皮膚疾患

3）真皮・皮下組織の疾患

4）腫瘍及び色素異常症

5）全身性疾患に伴う皮膚病変

授業の進め方

講義

教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ　成人看護学〔6〕 内分泌・代謝（医学書院）

系統看護学講座 専門分野Ⅱ　成人看護学〔12〕皮膚（医学書院）

系統看護学講座 専門分野Ⅱ　成人看護学〔13〕眼（医学書院）

系統看護学講座 専門分野Ⅱ　成人看護学〔14〕耳鼻咽喉（医学書院）

系統看護学講座 専門分野Ⅱ　成人看護学〔15〕歯・口腔（医学書院）

カラーで学べる病理学（ヌーヴェルヒロカワ）

参考図書

系統看護学講座　専門基礎　解剖生理学　人体の構造と機能〔1〕（医学書院）

評価方法

終講時　客観式テスト（100 点）

試験時間は時間数に含む。

領 域	専門基礎分野	授業科目	微生物学Ⅰ	単位（授業時間／時間数）	１（１４／１５）
開講年次	１年次	開講時期	前期	授業回数	７回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

専門基礎科目としての微生物学は、病理学や公衆衛生学のほか、多くの看護専門科目の基盤をなしている。その内容は、細菌学、ウイルス学、真菌学、原虫学などに分けられ、さらに、これらの科学と不離の関係にある免疫学、感染予防学および滅菌・消毒学をも包括する“総合的な専門基礎科目”である。

看護業務を志す人達は、これらの微生物学の体系的な基礎知識をしっかり身につけることによって、医療技術の専門家としての自覚と自信をもって感染症患者に適切に対処できるようになる。この教育目標の下に授業計画を立てた。

授業内容は、それぞれの微生物の特徴を熟知させて、その病原性、治療及び予防法などの基礎的知識を広く学習する。最近、大きな社会問題となっている医療事故が、医療現場における微生物汚染に起因している事例がきわめて多い。この点を重視して、院内感染・医療器具の汚染などを防止するためのリスク・マネージメントについて解説し十分修得させる。また、生体における免疫の仕組みを理解して、アレルギー発症のメカニズム、感染防御機構および臓器移植との関係などについて詳述し、理解させる。

授業目標

病原微生物とそれらが引き起こす感染症予防について理解する。

授業概要

1. 感染と発症
2. 感染に対する生体防御機構（免疫について）
3. 感染源と感染経路
4. 滅菌と消毒
5. 感染症の予防と治療
6. 感染症の現状と対策
7. アレルギーと自己免疫疾患

授業の進め方

微生物学総論として基礎理論を講義する。内容としては感染と発症、滅菌と消毒、化学療法、感染症の予防、免疫学について解説する。

教科書

ビジュアル微生物学〔第２版〕（ヌーヴェルヒロカワ）

参考図書

評価方法

終講時　客観式テスト（100 点）

筆記試験を行う。その内容の深さや範囲については、例年の看護師国家試験の内容を参考にしながら、その枠から逸脱しない範囲内で出題する。

試験時間は時間数に含む

領 域	専門基礎分野	授業科目	微生物学Ⅱ	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	１年次	開講時期	後期	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

専門基礎科目としての微生物学は、病理学や公衆衛生学のほか、多くの看護専門科目の基盤をなしている。その内容は、細菌学、ウイルス学、真菌学、原虫学などに分けられ、さらに、これらの科学と不離の関係にある免疫学、感染予防学および滅菌・消毒学をも包括する“総合的な専門基礎科目”である。

看護業務を志す人達は、これらの微生物学の体系的な基礎知識をしっかり身につけることによって、医療技術の専門家としての自覚と自信をもって感染症患者に適切に対処できるようになる。この教育目標の下に授業計画を立てた。

授業内容は、それぞれの微生物ごとに特徴を熟知させて、その病原性、治療及び予防法などの基礎的知識を広く学習する。最近、大きな社会問題となっている医療事故が、医療現場における微生物汚染に起因している事例がきわめて多い。この点を重視して、院内感染・医療器具の汚染などを防止するためのリスク・マネージメントについて解説し十分修得させる。また、抗細菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬、抗原虫薬などの作用メカニズムを理解させる。

授業目標

病原微生物について理解する。

授業概要

1. 細菌の性質・病原細菌と細菌感染症
2. 真菌の性質・病原真菌と真菌感染症
3. 原虫の性質・病原原虫と原虫感染症
4. ウイルスの性質・病原ウイルスとウイルス感染症
5. 化学療法薬の作用点

授業の進め方

細菌学、ウイルス学、真菌学、原虫学の総論と各論について、常に社会的ニーズを視野に入れながら学習を進める。最近、世界的に注目されているＳＡＲＳ、ＭＥＲＳ、エボラ出血熱、デング熱などのウイルス感染症およびプリオン病（ウシ海綿状脳症など）についても、解説する。また、それぞれの微生物の性質をふまえ、化学療法薬の作用点を解説する。

教科書

ビジュアル微生物学〔第 2 版〕（ヌーヴェルヒロカワ）

参考図書

評価方法

終講時　客観式テスト（100 点）

筆記試験を行う。その内容の深さや範囲については、例年の看護師国家試験の内容を参考にしながら、その枠から逸脱しない範囲内で出題する。

試験時間は時間数に含む。

領 域	専門基礎分野	授業科目	栄養学	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	１年次	開講時期	後期	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

食は生きる楽しみや文化や社会、経済状態にも影響を与える。したがって、看護者は生活する人として対象をとらえ、多角的に栄養に関するアセスメントを行い、援助につなげてほしい。

授業目標

栄養の基礎知識及び臨床栄養の基礎について理解する。

授業概要

1. 人間栄養学と看護
2. 栄養状態の評価・判定
   1）栄養と栄養素栄養状態の評価・判定の定義と目的
   2）栄養状態の評価・判定法
      (1) 臨床診査　(2) 身体計測　(3) 臨床検査　(4) 食事調査
3. 栄養素の種類とはたらき
   1）炭水化物
   2）脂質
   3）タンパク質
   4）ビタミン
4. エネルギー代謝
5. 栄養素の消化・吸収
6. 栄養素の体内代謝
7. 栄養ケア・マネージメント
8. ライフステージと栄養
9. 臨床栄養
   1）病院食
   2）疾患別食事療法の実際
   3）栄養補給法
10. 健康づくりと食品・食事・食生活

授業の進め方

講義

教科書

系統看護学講座　専門基礎分野　栄養学　人体の構造と機能〔3〕（医学書院）

参考図書

八訂　食品成分表 2021（女子栄養大学出版部）

評価方法

終講時　客観式テスト（100 点）

試験時間は時間数に含む

領 域	専門基礎分野	授業科目	薬理学Ⅰ	単位（授業時間／時間数）	１（１４／１５）
開講年次	１年次	開講時期	前期	授業回数	７回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

疾患の原因を除去するために薬は使用されるということ、また薬は身近なものであるという認識で薬について理解を深めてほしい。

授業目標

薬物作用機序及び薬物療法に対する看護の基礎が理解できる。

授業概要

1. 薬理学総論
   1）薬物治療の目ざすもの
   2）薬はどのように作用するのか
      (1) 薬理作用の基本形式
      (2) 薬の治療域と作用点
      (3) 薬の投与経路
   3）薬はどのように体内をめぐっていくのか
      (1) 吸収　(2) 分布　(3) 薬物の代謝
      (4) 排泄　(5) 生物学的半減期　(6) 薬物の血中濃度と薬物血中濃度モニタリング
   4）薬効に影響する因子
   5）薬物中毒はなぜおこるのか
      (1) 過量のおこる背景
      (2) 薬物使用の有益性と有害性
      (3) ある臓器に特有の有害作用おこす薬
      (4) 実例にみる薬物中毒
   6）薬の管理と新薬誕生
      (1) 管理に注意を要する医薬品
      (2) 新薬の開発
      (3) 医薬品情報の入手

授業の進め方

講義

教科書

系統看護学講座　専門基礎分野　薬理学　疾病のなりたちと回復の促進〔3〕（医学書院）
今日の治療薬 2021（南江堂）

参考図書

評価方法

終講時　客観式テスト（100 点）
試験時間は時間数に含む。

領 域	専門基礎分野	授業科目	薬理学Ⅱ	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	１年次	開講時期	後期	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

薬の作用についてただ覚えるだけではなく、薬が疾患の治療に用いられる理由を理解し、与薬前の準備から与薬後の経過観察までの一連のプロセスにおける薬の適正使用に関する考え方を身につけてほしい。

授業目標

薬物の種類と作用が理解できる。

授業概要

薬物の種類と基礎事項

1. 抗感染症薬
2. 抗がん薬
3. 免疫治療薬
4. 抗アレルギー薬・抗炎症薬
5. 末梢での神経活動に作用する薬物
6. 中枢神経系に作用する薬物
7. 心臓・血管系に作用する薬物
8. 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物
9. 物質代謝に作用する薬物
10. 皮膚科用薬・眼科用薬
11. 救急の際に使用される薬物
12. 漢方薬
13. 消毒薬

授業の進め方

講義

教科書

系統看護学講座　専門基礎分野　薬理学　疾病のなりたちと回復の促進〔3〕（医学書院）

今日の治療薬 2021（南江堂）

参考図書

評価方法

終講時　客観式テスト（100 点）

試験時間は時間数に含む。

領 域	専門基礎分野	授業科目	保健医療論	単位（授業時間／時間数）	１（１４／１５）
開講年次	１年次	開講時期	前期	授業回数	７回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

医療技術の進歩と新しい社会規範に即した現代医療の役割と位置づけを理解することで、看護職の果たす役割と可能性を知り、看護専門職としての視野を広げられるように教授する。

授業目標

保健・医療・福祉の現状と抱えている問題点、その問題発生の背景を知り、専門職として社会に貢献する方向性、視点について学ぶ。

授業概要

1. 医療の進歩と医の倫理
   - A 医療に関する誓約、規範などにみる倫理の歴史的あゆみ
   - B 現代医療における倫理
   - C バイオエシックス（生命倫理）
   - D 先端医療と医学・医療のあゆみ倫理問題
   - E 臨床医学研究と倫理
2. 医療における患者の権利
   - A 患者の権利尊重の医療背景　B 患者の権利主張とその承認　C 患者の自己決定権
3. 病状（真実）の告知
   - A 死の告知について　B 癌告知における 1990 年頃までの日・米の相違とその後
   - C 致死を知った患者の反応　D 死の告知と死の受容と医師の責務
4. 脳死と臓器移植
   - A 脳死 - 新しい死の概念　B 脳死は人の死（個体死）かの論議
   - C 脳死・臓器移植に関する法的整備　D 残されている法的・倫理的問題点
5. 死と生命維持、安楽死、死を共有する医療
   - A 臨死患者
   - B 死の解釈と問題点
   - C 死への対応・ターミナルケア
   - D 安楽死
   - E 尊厳死・消極的安楽死・自然死
   - F ホスピス

授業の進め方

講義

教科書

新体系　看護学全書　現代医療論　健康支援と社会保障制度①　（メヂカルフレンド社）

参考図書

評価方法

終講時　客観式テスト（100 点）

試験時間は時間数に含む。

領 域	専門基礎分野	授業科目	公衆衛生学	単位（授業時間／時間数）	２（２８／３０）
開講年次	２年次	開講時期	前期	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

公衆衛生の特性と歴史を学び、人々の健康とは何か、健康を規定する要因を知る。

健康指標から人々の健康の実態を知り、病院以外の地域の健康づくりと疾病対策や地域保健活動を学ぶ。

授業目標

1. 公衆衛生の理念と健康を規定する生活環境の身体への影響について学ぶ
2. 健康とは何か、疫学と健康指標を知り、新しい健康の概念と支援方法を学ぶ
3. 社会制度の概要を知り、医療の現状と医療制度改革を学ぶ
4. 地域保健の特性と支援体制と展開方法を学ぶ
5. 対象別、場面別地域保健活動と看護職の役割を学ぶ

授業概要

1. 公衆衛生の特性と情報公開、健康と環境
2. 疫学と健康指標と健康づくり対策
3. 日本の社会保障制度と医療制度改革、グローバル化と公衆衛生
4. 地域保健活動の特性と体制、展開方法
5. 地域保健康指標情報収集とまとめ、演習・発表
6. 地域の対象別保健活動（母子保健・成人老人保健・難病対策・精神保健）
7. 場面別地域看護活動（学校保健・産業保健）
8. 地域の対象別保健活動（感染症）、これからの公衆衛生活動

授業の進め方

教科書の内容に沿って、国民衛生の動向を参考図書として講義を行う

居住地の公衆衛生に関する情報を収集しまとめ、プレゼンテーションする（グループワーク）

教科書

系統看護学講座　専門基礎分野　公衆衛生　健康支援と社会保障制度②（医学書院）

参考図書

国民衛生の動向（厚生統計協会）

評価方法

終講時　客観式テスト（100 点）

試験時間は時間数に含む。

領 域	専門基礎分野	授業科目	社会福祉	単位（授業時間／時間数）	２（２８／３０）
開講年次	２年次	開講時期	前期	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

患者さんの地域や家庭での生活へのトータルケアマネジメントの視点を持ち、他の医療関係者との連携への姿勢を期待したい。

授業目標

社会福祉と医療、社会保障の関連を理解し、社会資源の活用及び福祉サービスについて理解する。

授業概要

まず、社会福祉とは何かを解説する。

その後、社会福祉の歴史、社会福祉総論、社会福祉各論の順序で解説する。

ほぼ授業の毎回、国家試験の過去問題のアレンジした問題を演習する。

1. 社会福祉の歴史
2. 社会保障の大系
3. 社会福祉の理念
4. ライフサイクルと社会福祉
5. 少子高齢化と社会福祉
6. 生活保護（生活保護の現状と問題点）
7. 地域福祉
8. 社会保険制度（医療・年金・雇用・労災・介護）
   特に年金と介護については現状と問題点を十分に解説する
9. 家庭内暴力と社会福祉
10. 児童虐待と社会福祉
11. 高齢者虐待と社会福祉
12. 医療と看護と福祉の連携について

授業の進め方

講義

テキストを用い、必要に応じて板書、レジメ（国家試験の過去問題のアレンジ）を配布する

質疑応答

教科書

系統看護学講座　専門基礎分野　社会保障・社会福祉　健康支援と社会保障制度③（医学書院）

参考図書

評価方法

終講時　客観式テスト（100 点）

ただし、毎回の授業態度、授業に真摯に向き合わない者については平常点を減点する。

試験時間は時間数に含む。

領 域	専門基礎分野	授業科目	関係法規	単位（授業時間／時間数）	２（２８／３０）
開講年次	３年次	開講時期	通年	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

保健・医療・福祉に関する各種制度や関係法令を看護との関係や日常生活や実習での経験、マスメディアなどでのニュースと関連づけて理解してほしいと思います。

授業目標

看護活動に関する法の種類とその内容について理解することを目標とします。

授業概要

まず、社会福祉とは何かを解説する。

その後、社会福祉の歴史、社会福祉総論、社会福祉各論の順序で解説する。

ほぼ授業の毎回、国家試験の過去問題のアレンジした問題を演習する。

第 1 回　イントロダクション
第 2 回　法律と厚生行政の仕組み
第 3 回　保健師助産師看護師法①
第 4 回　保健師助産師看護師法②
第 5 回　医療法・医師法
第 6 回　医薬品医療機器等法・薬剤師法
第 7 回　保健衛生法①
第 8 回　保健衛生法②
第 9 回　保健衛生法③
第 10 回　社会保障法
第 11 回　環境衛生法
第 12 回　福祉労働関係法規
第 13 回　公害関係法規
第 14 回　まとめ

授業の進め方

講義

教科書

系統看護学講座　専門基礎分野　看護関係法令　健康支援と社会保障制度④（医学書院）

参考図書

評価方法

終講時　客観式テスト（100 点）

試験時間は時間数に含む。

領 域	専門分野Ⅰ	授業科目	基礎看護学概論	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	１年次	開講時期	前期	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属	―	
特記事項	―			―	

授業のねらい

この授業では、看護とは何か、看護師とはどのような職業かを学ぶ。人を世話するにあたって基本となる姿勢・考え方や、どのような援助が人のためになり、または人のためにならないかなどについて学んでいく。「人の役に立ちたい」という気持ちを、実際の行動として具現化する方法を学んでいくことで、看護を志す初学者としての基本的な“考え方”を身につけてほしい。

授業概要

１ ２	看護の本質とはなにかについて、つねに考える態度を身につけるため、看護の歴史的変遷と、様々な理論家による看護のとらえ方、看護職能団体による看護の定義を理解する。
３	日本における看護職の資格と養成制度、看護職者の就業状況、継続教育の概要を理解する
４	看護におけるケアとは何かを理解し、看護実践に必要な要素、看護実践の質の保証に必要な要件を学ぶ。
５ ６	一人の患者の入院から退院までの事例を通じて、看護の継続性と多職種の連携の実際、その重要性について理解する。
７ ８	「こころ」と「からだ」にかかるストレスの影響など、理論を通して、看護実践にどう活用されるのかを理解する。（事例展開）
９	医療･看護における倫理の歴史的変遷を学び､どのような倫理的問題があるのかを知ることで、なぜ倫理を学ぶ必要があるのかを理解する。
１０ １１	倫理原則を理解し、倫理的問題や倫理的ジレンマの解決をどのように図るのかを学び、倫理を学ぶ必要性について理解する。
１２ １３ １４	事例をもとに、対象理解の基盤となる人体の構造と機能・病態生理が看護実践にどう結びつくのかを理解し、その重要性を学ぶ。（ヘンダーソンの理論を用いてアセスメント）
１５	終講時試験

授業の進め方

「看護とは何か」について、考えながら受講する。講義は一斉講義、ＧＷ、発表など取り入れて行うので自身の考えを述べられるようにしておく。ポイントを示すので、各自でノート、資料作成を行う。

予習：指示された箇所について、ノート整理をして講義に臨む。

復習：講義で紹介した様々な用語の概念や定義について、復習し理解を深める。

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔1〕看護学概論（医学書院）

副読本

「あなたの声が聞きたい」（佼成出版社）、「看護覚え書決定版」（現代社）

看護の基本となるもの（日本看護協会）

評価方法

終講時　客観式テスト（100 点）

試験時間は時間数に含む（まとめ 1 時間、試験 1 時間）

出席、終講時試験、レポート、発表、課題、提出状況等を踏まえて総合的に評価する

領 域	専門分野Ⅰ	授業科目	基礎看護学方法論Ⅰ	単位（授業時間／時間数）	２（４４／４５）
開講年次	１年次	開講時期	通年	授業回数	２２回
担当講師名	専任教員		講師所属	福岡水巻看護助産学校	
特記事項	実務経験のある教員による科目			臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行なう	

授業のねらい

看護過程は対象にとって必要な援助を見極め、提供するための手段・方法論である。つまり、看護という目的意識を持った実践のプロセスである。対象にとって必要な看護実践に責任がもてる思考過程を育てることをねらいとする。

授業目標

1. 看護過程を構成する要素とそのプロセスを理解する。
2. 看護過程を用いることの意義を理解する。
3. 実際の事例をもとに、問題解決過程やクリティカルシンキング、リフレクション、倫理的判断といった看護過程の基盤となる考え方について学ぶ。
4. アセスメント、看護問題の明確化、看護計画、実施、評価といった看護過程の各段階について、その基本的な考え方と実際を学ぶ。
5. 看護記録の目的と留意点、その構成について学ぶ。

授業概要

1	大切な人の健康について考える	12	関連図
2	発表・共有会	13	演習　関連図
3	看護過程の構成要素	14	演習　フォーカスアセスメント
4	看護過程とは　基盤となる考え方	15	演習　フォーカスアセスメント
5	基盤となる考え方　演習	16	演習　看護計画
6	アセスメントの枠組み	17	演習　看護計画
7	演習　ゴードン機能的健康パターンを読み解く	18	実施　倫理原則
8	演習　ゴードン機能的健康パターンを読み解く	19	評価
9	演習　情報とは	20	看護記録
10	演習　情報整収集、情報の整理	21	事例展開
11	演習　スクリーニングアセスメント	22	まとめ

※授業概要は、進度によって変更することがあります。

授業の進め方

講義、演習を織り交ぜながら進める

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔2〕　基礎看護技術Ⅰ（医学書院）
ゴードン博士の看護診断アセスメント指針（照林社）
看護診断ハンドブック第 11 版　著：リンダ J. カルペニート=モイエ（医学書院）

参考図書

評価方法

終講時　事例展開の内容も含む客観式テスト（100 点）
試験時間は時間数に含む。

領 域	専門分野Ⅰ	授業科目	基礎看護学方法論Ⅱ	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	２年次	開講時期	通年	授業回数	１４回
担当講師名	専任教員		講師所属	福岡水巻看護助産学校	
特記事項	実務経験のある教員による科目			臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行なう	

授業のねらい

看護研究は看護の学門領域における理論的な位置付けを確立するための活動であることを理解し、専門的知識・技術の創造と開発に努めることの重要性を学ぶ。

授業目標

1. 看護研究の基本プロセスを理解する。
2. 基礎看護学実習Ⅱの事例を振り返り、ケーススタディとしてまとめることができる。
3. まとめたケーススタディを発表できる。

授業概要

1. 看護研究のプロセス
   1）研究テーマ
   2）文献検索
   3）倫理的配慮
   4）研究計画書
2. ケーススタディとしてまとめる
   1）ケーススタディ計画書作成
   2）ケーススタディまとめ
3. ケーススタディ発表

授業の進め方

講義、演習

事例研究の実際では各自に指導教員が付く。

教科書

わかりやすいケーススタディの進め方（照林社）

系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔1〕看護学概論（医学書院）

参考図書

評価方法

ケーススタディ作成のプロセスおよび発表で総合評価をする。

試験時間は時間数に含む。

領 域	専門分野Ⅰ	授業科目	基礎看護技術Ⅰ－１	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	１年次	開講時期	通年	授業回数	１４回
担当講師名	専任教員		講師所属	福岡水巻看護助産学校	
特記事項	実務経験のある教員による科目			臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行なう	

授業のねらい

看護技術を習得する目的は，看護を必要とする人に適切な看護が提供できるようになるためである。そのため、知識習得・技術習得に向けての日々絶え間ない努力が必要である。また、看護は、対象となる人の状態を観察によって正確に理解することから始まる。その意味で、看護の全過程においてコミュニケーション能力・観察技術は欠かせない手段であり、そのために必要な知識・技術を習得する。さらに、看護師は健康を維持、回復するための役割を担っている。そのため、必要な学習支援の実際を学びセルフマネージメント能力へとつなげる。

授業目標

1. 看護技術とは何か、看護技術の基本・特徴、その範囲について説明できるとともに、看護技術の発展と修得のために自己研鑽に励む必要性を理解する。
2. 看護におけるコミュニケーションの意義・目的について理解し、効果的なコミュニケーション方法を理解する。
3. 全身状態を系統的に把握するためのフィジカルアセスメントの基礎的知識を習得する。
4. 生命の徴候であるバイタルサインの基礎的知識・技術を習得する。
5. 看護における学習支援の目的・意義を理解し、学習支援の実際について理解する。

授業概要

1. 看護技術を学ぶにあたって
2. 看護におけるコミュニケーション
3. フィジカルアセスメントー視診・触診・聴診・打診ー
4. バイタルサインの観察とアセスメント
5. 学習支援

＊看護技術チェックを行う（詳細は授業にて説明する）

授業の進め方

講義、演習

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ（医学書院）
系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院）

参考図書

看護がみえる　vol.3　フィジカルアセスメント（メディックメディア）

評価方法

客観式テスト（100 点）
試験時間は時間数に含む

領 域	専門分野Ⅰ	授業科目	基礎看護技術Ⅰ－２	単位（授業時間／時間数）	１（１０／３０）
開講年次	１年次	開講時期	通年	授業回数	５回
担当講師名	専任教員		講師所属	福岡水巻看護助産学校	
特記事項	実務経験のある教員による科目			臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行なう	

授業のねらい

看護師は患者の安全・安楽の確保という重要な役割を担っており、安全確保の技術はあらゆる看護の領域において求められる基礎的能力のひとつである。本単元では、患者・看護師双方の安全・安楽を考慮した看護を提供するために必要なスタンダードプリコーション・滅菌物の取り扱い・感染廃棄物の取り扱いなどの感染防止の技術を身につけることを目的とする。2020 年 1 月、わが国にも新型コロナウィルスが上陸し、その勢力は瞬く間に全国に拡大した。現在、「with コロナ」時代という言葉が表すように、今後は新型コロナウィルス感染症の存在を前提に感染管理を徹底していく必要がある。時代に即した感染対策を講じるため、適切な感染管理に基づいた基礎的知識・技術・態度を身につけさせたい。。

授業目標

1. 感染成立の条件および感染予防の目的を理解することができる
2. 標準予防策を学び、実践することができる
3. 洗浄・消毒・滅菌の実際について説明することができる
4. 感染性廃棄物の取り扱いについて学び、実践することができる
5. 無菌操作の基本について学び、実践することができる

授業概要

1. 感染防止の基礎知識
2. 感染経路とその予防策
3. 標準予防策
4. 洗浄・消毒・滅菌
5. 無菌操作
6. 感染性廃棄物の取り扱い

授業の進め方

講義、演習

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院）

看護技術プラクティス（学研）

参考図書

評価方法

客観式テスト（40 点）、出席、演習の取り組み、課題、提出状況などを踏まえて総合的に評価する

試験時間は時間数に含む

領 域	専門分野Ⅰ	授業科目	基礎看護技術Ⅰ－２	単位（授業時間／時間数）	１（１０／３０）
開講年次	１年次	開講時期	通年	授業回数	５回
担当講師名	専任教員		講師所属	福岡水巻看護助産学校	
特記事項	実務経験のある教員による科目			臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行なう	

授業のねらい

看護師は、おこりうる医療事故を防ぎ患者の安全・安楽を確保という重要な役割を担っている。安全確保の技術はあらゆる看護領域において求められる基礎的能力の一つであるため、本科目では医療の場における発生頻度の高い事故に対して、安全管理対策の必要性を理解し、管理技術を身につける。

授業目標

１．安全確保の技術、基礎知識を理解することができる。

1）医療事故・医療過誤の意味を区別することができる。

2）安全を脅かす要因について述べることができる。

3）安全確保の方法を述べることができる。

授業概要

１．安全確保の技術

1）安全確保の基礎知識

2）誤薬防止

3）チューブ類の予定外抜去防止

4）患者誤認防止

5）薬剤・放射線曝露の防止

授業の進め方

講義、グループワーク

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔３〕　基礎看護技術Ⅱ（医学書院）

看護技術プラクティス（学研）

参考図書

配布資料

評価方法

客観式テスト（30 点）、演習取り組み状況（10 点）

試験時間は時間数に含む。

領 域	専門分野Ⅰ	授業科目	基礎看護技術Ⅰ－２	単位（授業時間／時間数）	１（８／３０）
開講年次	１年次	開講時期	通年	授業回数	４回
担当講師名	専任教員		講師所属	福岡水巻看護助産学校	
特記事項	実務経験のある教員による科目			臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行なう	

授業のねらい

創傷の環境を整え、治癒を促すための看護を学ぶ。
創傷治癒過程を理解し、創部の観察、評価、それぞれの創に応じた創傷管理を習得できるようにする。また、感染管理や栄養管理、循環の維持などの全身状態を整えるトータルケアを学ぶことをねらいとする。

授業目標

1. 創傷治癒の過程を知り、褥瘡を含む創傷の予防や治癒促進への援助方法を理解することができる。
2. 包帯法の基礎知識を知り、巻軸帯や三角巾を用いた適切な援助ができる。

授業概要

1. 創傷の治癒過程
2. 創傷のアセスメント
3. 洗浄、保護、包帯法
4. 褥瘡の予防と治癒の促進

授業の進め方

講義、演習

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院）
看護技術プラクティス（学研）

参考図書

評価方法

客観式テスト＋演習取り組み状況（20 点）
試験時間は時間数に含む。

領 域	専門分野Ⅰ	授業科目	基礎看護技術Ⅱ－１	単位（授業時間／時間数）	１（１０／３０）
開講年次	１年次	開講時期	前期	授業回数	５回
担当講師名	専任教員		講師所属	福岡水巻看護助産学校	
特記事項	実務経験のある教員による科目			臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行なう	

授業のねらい

1. 活動の意義と必要性を理解し、体位及び体位変換（移動動作）の看護技術を習得する。
2. 睡眠・休息の意義と必要性を理解し、安楽・安眠への援助に関する看護技術を習得する。

授業目標

1. 姿勢の基礎知識、ボディメカニクスの原理を理解できる。
2. さまざまな体位とその目的を理解し、体位変換の援助を実施できる。
3. 車椅子・ストレッチャーによる移乗の援助と移送の援助を理解し実施できる。
4. 睡眠と睡眠障害、睡眠に障害をもつ患者への具体的な援助が理解できる。

授業概要

1. 活動・運動の意義
2. 活動・運動の生理学的メカニズム
   1)運動の神経支配と骨格筋の収縮
   2)体位変化とバイタルサイン
   3)同一体位と体圧
3. 基本的活動の援助
   1)基本的活動の基礎知識
      (1)よい姿勢
      (2)日常生活動作
      (3)ボディメカニクス
      (4)体位の種類
   2)援助の実際
      (1)援助の基礎知識
      (2)体位変換
      (3)移動
      (4)移乗・移送
         車椅子、ストレッチャー
4. 休息・睡眠の生理学的メカニズム
   1)睡眠の種類
   2)睡眠制御のメカニズム
5. 休息・睡眠の援助の実際
   1)睡眠障害のアセスメント
   2)援助方法の選択

授業の進め方

講義、演習

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院）
看護技術プラクティス（学研）

参考図書

授業時　提示

評価方法

客観式テスト（30 点）
試験時間は時間数に含む。

領 域	専門分野Ⅰ	授業科目	基礎看護技術Ⅱ－１	単位（授業時間／時間数）	１（１８／３０）
開講年次	１年次	開講時期	前期	授業回数	９回
担当講師名	専任教員		講師所属	福岡水巻看護助産学校	
特記事項	実務経験のある教員による科目			臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行なう	

授業のねらい

世界的大流行を引き起こした新型コロナウィルスでは感染対策として「換気」の重要性が注目されている。これは、ナイチンゲールが看護に不可欠と考えた“清浄な空気を保つこと”がいかに健康に影響を与えるか、「汚れた空気」は回復過程を妨げることにつながる。そのような中、人と環境は密接な関係にあり、生活環境の適・不適は、健康の保持・増進や療養環境に大きな影響を与える。環境には、自然そのものと人為的なものがあるが、これらは人間の身体的・精神的な発育や健康状態だけでなく、知的、道徳的、社会的側面などの生活の全てに影響を及ぼす。患者の療養生活の場は、治療・看護を受ける場であるとともに、食事や状況に応じて排泄をするなどの生活行動の場でもある。そのため、療養生活の場が快適な場であるように環境を整えるための知識・技術を学んで欲しい。

授業目標

1. 生活環境と健康に関する看護の意義について学ぶことができる
2. 生活環境と健康に関する基礎知識を学ぶことができる
3. 快適な療養環境を整える技術を習得することできる

授業概要

1. 生活環境と健康に関する看護の意義
2. 生活環境と健康に関する基礎知識
   1）病棟の構造
   2）病室内構造の構成要素
3. 環境調整のための援助の実際
   1）ベッド周囲と病床の環境整備
   2）ベッドメーキング

授業の進め方

講義、演習

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院）
看護技術プラクティス（学研）

参考図書

評価方法

終講時 客観式テスト＋演習取り組み状況（70 点）
試験時間は時間数に含む。

領 域	専門分野Ⅰ	授業科目	基礎看護技術Ⅱ－２	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	１年次	開講時期	通年	授業回数	１４回
担当講師名	専任教員		講師所属	福岡水巻看護助産学校	
特記事項	実務経験のある教員による科目			臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行なう	

授業のねらい

排泄行動は人間の生命・生活行動にとって重要な日常の営みである。患者は、排泄援助が必要な状況となった際、たいへんな羞恥心を抱き、援助者に対して遠慮や恐縮の感情を抱く。また、排泄の援助方法自体に苦痛を伴う場合もある。したがって本科目では、排泄の仕組みと排泄援助の方法と目的を学び、患者の羞恥心に配慮できる、また患者の個別性・その人の持てる力を最大限発揮する援助を考える視点をもって、患者の排泄の自立支援の必要性を理解できることをめざす。

呼吸・循環を整えるケアが必要な患者は、とくに重篤な場合が多く、実施後には必ず記録を残すことも必要である。呼吸・循環を含めて、人間の身体構造と機能に関する総合的なアセスメント能力を培うために、正確な知識と技術の習得を目指し、呼吸・循環を整える看護技術について、演習を通してその必要性と根拠を学ばせたい。

授業目標

［排泄援助技術］

1. 排泄の意義とそのメカニズムを理解することができる
2. 排泄援助の方法を学び、実践することができる

［呼吸・循環を整える技術］

1. 呼吸・循環を整える看護技術の目的と方法を理解し、援助の実際を学ぶことができる

授業概要

［排泄援助技術］

1. 自然排尿および自然排便の基礎知識
2. 導尿
3. 排便を促す援助

［呼吸・循環を整える技術］

1. 酸素吸入療法
2. 吸引
3. 排痰ケア
4. 吸入

授業の進め方

講義、演習、ジグソー学習

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院）

看護技術プラクティス（学研）

参考図書

評価方法

客観式テスト、出席、演習の取り組み、課題、提出状況などを踏まえて総合的に評価する。

試験時間は時間数に含む。

領 域	専門分野Ⅰ	授業科目	基礎看護技術Ⅲ－１	単位（授業時間／時間数）	２（４４／４５）
開講年次	１年次	開講時期	通年	授業回数	２２回
担当講師名	専任教員 非常勤講師		講師所属	福岡水巻看護助産学校	
特記事項	実務経験のある教員による科目			臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行なう	

授業のねらい

日常生活を健康的に営む上で欠かすことができない衣生活や、身体の清潔を維持するために必要な科学的根拠に基づいた援助技術を習得する。基礎看護技術において、安楽は重要な要素であり、すべての看護援助が対象者の安楽につながると言っても過言ではない。対象者にとって安楽かつ快適さを提供する技術について、その必要性を学び、また体験を通して技術を修得する。

食事は、生命を維持し、健康を保つ上で不可欠なものである。健康生活に置ける食事の意義を理解し、食事制限や食事を摂取する機能の障害が対象に及ぼす影響を消化・吸収のメカニズムと共に理解する。また、疾病、障害など何らかの理由で食事ができなくなった、あるいはしづらくなった対象者に、その人の通常の生活に近い状態で食事ができるように援助する役割について学ぶ。

救命救急では、患者が意識障害、呼吸停止、心停止、もしくはこれに近い状態に陥ったとき、十分に観察・アセスメントし、適切な手順に従って迅速に、呼吸および循環を補助し、救命するための技術を体得させたい。

授業目標

1. 清潔・衣生活
   1）皮膚の解剖生理を理解し、清潔を保つ必要性が理解できるようになる。
   2）看護における衣生活、清潔への援助の意義と看護師の役割を説明できるようになる。
   3）清潔、衣生活のそれぞれが相互に関連し合っていることが説明できるようになる。
   4）設定された条件下の対象の状態に応じた衣生活・清潔援助技術の方法を説明できるようになる。
   5）衣生活と清潔の援助技術を、留意点をふまえ、基本的な方法で実施できるようになる。
   6）対象の反応を捉えつつ、安全・安楽、自立を考慮しながら清潔援助が実施できるようになる。
2. 安楽・罨法
   1）体位の生理的意義を理解し、必要に応じて適切な体位をとらせる方法を修得する。
   2）罨法が必要な場合、安全と安楽を考慮した適切な援助について考えることができる。
   3）リラクセーション法を理解し、苦痛の緩和や精神的安寧をもたらす方法を修得する。
3. 食事
   1）健康生活における食事の意義と看護の視点について考える。
   2）食事を摂取する機能と消化・吸収のメカニズムについて理解する。
   3）食行動の援助に関する基礎知識について理解する。
   4）科学的根拠に基づき対象者にあった食事援助が実施できる。
   5）食事を摂取する機能に障害がある方の摂食・嚥下訓練を理解する。
4. 救命救急
   1）救急対応の考え方、急変時における初期対応の流れ、トリアージについて理解できる。
   2）心肺蘇生法の基礎知識と一次救命処置の実際を学ぶことができる。
   3）出血の種類と止血の手順を学ぶことができる。

4）院内急変時の対応について理解することができる。

授業概要

1．清潔・衣生活援助技術

1）清潔援助の基礎知識

2）清潔援助の実際

・全身清拭　・手浴

・陰部洗浄　・足浴

・入浴　・口腔ケア

・洗髪　・義歯洗浄

3）衣生活の援助

（1）病衣の条件

（2）身だしなみ

（3）病衣交換

2．苦痛の緩和・安楽確保の技術

1）安楽な体位

（1）安楽の定義

（2）体位の種類と身体への影響

（3）体位と生理学的要素との関係

①呼吸機能への影響

②循環血液量への影響

（4）同一体位の有害性

①血液の循環障害

②筋の萎縮・機能低下

③患者の精神的安楽の妨げ

（5）安楽な体位の保持

2）罨法

（1）罨法と生理学的メカニズム

①罨法の意義

（2）罨法の効果と適用

①皮膚感覚

②循環器

③筋・神経

（3）罨法の効果

①冷罨法

②温罨法

3．食事援助

1）食事の意義

2）食事に関するメカニズム

3）食事と栄養に関する基礎知識

4）食事・栄養に関する援助の方法

5）非経口摂取している患者の看護

4．救命救急

1）救命救急処置の基礎知識

（1）救急対応の考え方

（2）急変時における初期対応

（3）トリアージ

2）心肺蘇生法

3）止血法

4）院内急変時の対応

【担当からのメッセージ】

看護技術は繰り返し実施することで修得できます。効果的な学習計画を立て練習してください。

授業の進め方

講義、演習

演習では、グループになり、看護者役、患者役、観察者を体験し、それぞれの立場に立ってどのような技術提供が必要であるかを考える。またリフレクションを行い、知識・技術の向上を図る。

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院）

看護技術プラクティス（学研）

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔12〕皮膚（医学書院）

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔7〕脳・神経（医学書院）

参考図書

配布資料　必要時参考図書の紹介

評価方法

出席状況・課題提出状況・演習取り組み状況（20 点）、終講時客観式テスト（80 点）

試験時間は時間数に含む。

領 域	専門分野Ⅰ	授業科目	基礎看護技術Ⅲ－2	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	２年次	開講時期	通年	授業回数	１４回
担当講師名	専任教員		講師所属	福岡水巻看護助産学校	
特記事項	実務経験のある教員による科目			臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行なう	

授業のねらい

治療・診療に伴う援助技術として、与薬、症状・生体機能管理技術について基本的な看護援助技術を学ぶ。与薬技術は直接的な生体侵襲が大きいため、安全かつ正しい指示に基づく正確な与薬方法について、演習モデルを活用し学習する。症状・生体管理技術における生体情報のモニタリングは、看護師が患者をアセスメントする方法の 1 つである。適切な方法により得られた情報が、患者把握のための手掛かりとなるため、実際に ME 機器に触れながら学びを深めていく。

授業目標

1. 薬物療法における看護師の役割と責務について述べることができる。
2. 各与薬法の特徴と援助方法、安全に実施するための注意事項を説明できる。
3. 各注射法の準備・実施・後始末が正しくできる。
4. 輸液ポンプを用いた輸液管理の方法を説明することができる。
5. 検査を受ける対象とその対応について学ぶことができる。
6. 輸血時の看護師の役割と主な検査時の看護の実際について述べることができる。

授業概要

1. 与薬の技術（田中：20 時間）
   1）与薬の基礎知識
   2）経口与薬・口腔内与薬、吸入、点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬、注射
   3）輸血管理
2. 症状・生体機能管理技術（山本：8 時間）
   1）症状・生体機能管理技術の基礎知識
   2）検体検査
   3）生体情報のモニタリング

授業の進め方

講義、演習（ジグソー共同学習）

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院）
看護技術プラクティス（学研）

参考図書

評価方法

客観式テストおよび演習取り組み状況による総合評価(100 点)
試験時間は時間数に含む

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学概論	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	１年次	開講時期	通年	授業回数	１４回
担当講師名	専任教員		講師所属	福岡水巻看護助産学校	
特記事項	実務経験のある教員による科目			臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行なう	

授業のねらい

本科目は成人看護学の導入となる科目である。変革の時代を生きる大人を対象に、その人にとって最適な健康を維持・増進するための考え方と看護援助を学ぶ。

授業目標

1. 対象の理解と成人の生活と健康を理解する。
2. 成人看護の基本となる考え方や方法論を理解する。
3. 成人の健康レベルに対応した看護を理解する。
4. 成人の健康生活を回復・維持・促進するための看護技術を理解する。

授業概要　＊授業目標の内容を示しています。

1. 1）大人はどのような課題をとげ、社会的期待や役割を果たしているのかを学ぶ。
1. 2）成人を取り巻く環境と生活状況を把握し、健康で安全な生活の維持・促進の方法を学ぶ。
2. 1）成人看護の基本となる考え方や方法論、健康行動を促すための行動変容を促進する方法を学ぶ。
2. 2）マネジメント、倫理的判断、対象の意思決定、複雑化する医療における看護師の役割を学ぶ。
3. 1）成人のさまざまな健康レベルとプロセスを、ヘルスプロモーション、生活のなかでの健康障害、健康の急激な破綻、慢性病と共存、障害がある人の生活、人生最期を生きる人を学ぶ。
3. 2）健康とはどのようなものであり、それらはどのような要因で危険にさらされ、破綻し、再生
3. 2）回復していくのかを知り、その過程で看護はなにができるのか学ぶ。
4. 1）新たな治療法、処置は、医療を受ける人の健康行動にどのような変化をもたらすのか、患者
4. 1）家族の看護について学ぶ。
4. 2）対象者の尊厳を守ること、情報の取扱いや共有において適切な行動をとること、対象者の選択権や自己決定権を尊重し、対象者及び家族の意思決定を支援することを学ぶ。

授業の進め方

教科書を主軸にして、成人各期の人々が登場する事例を取り入れます。授業範囲明が広いのでどの部分を学んでいるのか、各部のイントロダクション、ゼミナールを適宜活用し、自己学習内容を整理していきましょう。
課題レポート、受講自己評価 Minute　Paper を使用し授業のポイントをおさえます。

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔1〕成人看護総論（医学書院）
犠牲(サクリファイス)　柳田邦男（文春文庫）

参考図書

国民衛生の動向（厚生統計協会）

評価方法

終講時 客観的テスト(100 点)、レポート・プレテスト・出席状況を踏まえて総合的に評価する。
試験時間は時間数に含む（まとめ 1 時間、試験 1 時間）

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学Ⅰ	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	２年次	開講時期	前期	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

専門基礎分野で学んだ知識を踏まえ、呼吸器・循環器の機能障害のある患者を統合的に捉え、科学的根拠に基づく看護が展開できるよう教授する。

授業目標

呼吸器機能障害をもつ患者の看護の方法を理解する。

循環器機能障害をもつ患者の看護の方法を理解する。

授業概要

（呼吸器）（14 時間）

1. 呼吸器疾患をもつ患者の特徴
2. 呼吸器疾患をもつ患者の看護
   1）症状に対する看護
      (1) せき・喀たんのある患者の看護　(2) 血たん・喀血のある患者の看護
      (3) 胸痛のある患者の看護　(4) 呼吸困難のある患者の看護
   2）検査・治療・処置を受ける患者の看護
      (1) 内視鏡検査　(2) 肺組織の生検
      (3) 吸入療法を受ける患者の看護　(4) 酸素療法を受ける患者の看護
      (5) 人工呼吸器を装着する患者の看護　(6) 呼吸理学療法を受ける患者の看護
      (7) 気管切開を受ける患者の看護　(8) 胸腔ドレナージを受ける患者の看護
      (9) 手術を受ける患者の看護
   3）疾患をもつ患者の看護
      (1) 肺炎患者の看護　(2) 結核患者の看護
      (3) 気管支喘息患者の看護　(4) 慢性閉塞性肺疾患患者の看護
      (5) 肺血栓塞栓症患者の看護　(6) 急性呼吸促迫症候群患者の看護
      (7) 睡眠時無呼吸症候群患者の看護　(8) 肺がん患者の看護
      (9) 自然気胸患者の看護

（循環器）（14 時間）

1. 循環器疾患をもつ患者の特徴
2. 循環器疾患をもつ患者の看護
   1）症状に対する看護
      (1) 胸痛　(2) 動悸　(3) 浮腫
      (4) 呼吸困難　(5) 頻呼吸　(6) チアノーゼ
      (7) 倦怠感　(8) 失神　(9) 四肢の疼痛
   2）検査・治療・処置を受ける患者の看護
      (1) 心臓カテーテル　(2) 心電図検査　(3) 運動負荷試験
      (4) 胸部Ｘ線検査　(5) 心エコー　(6) 血行動態モニタリング
      (7) 動脈血ガス分析　(8) 核医学検査　(9) コンピュータ断層撮影

（10）磁気共鳴画像法　（11）薬物療法　（12）心臓カテーテル治療
（13）手術療法　（14）冠動脈バイパス術　（15）弁置換術
（16）大血管再建術　（17）血栓除去術　（18）補助循環装置装着

3）疾患をもつ患者の看護

（1）虚血性心疾患　（2）心不全　（3）血圧異常
（4）不整脈　（5）弁膜症　（6）心筋梗塞
（7）先天性心疾患　（8）動脈疾患　（9）静脈疾患
（10）高脂血症

4）心臓リハビリテーション

授業の進め方

講義

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔2〕呼吸器（医学書院）
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔3〕循環器（医学書院）

参考図書

評価方法

終講時 客観式テスト（呼吸器：50 点、循環器：50 点）
試験時間は時間数に含む。

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学Ⅱ	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	２年次	開講時期	通年	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

専門基礎分野で学んだ知識を踏まえ、消化器機能障害のある患者を統合的に捉え、科学的根拠に基づく看護が展開できるよう教授する。

周手術期の患者の看護を通して、手術療法により生体機能が急激に変化している対象を理解し、生命の維持と苦痛の緩和を図るための援助を習得できるよう教授する。

授業目標

消化器機能障害をもつ患者の看護の方法を理解する。

周手術過程に応じた看護の方法を理解する。

授業概要

（消化器）（18 時間）

1. 消化器疾患をもつ患者の特徴
2. 消化器疾患をもつ患者の看護
   1）症状に対する看護
      （1）嚥下困難　（2）食欲不振と体重減少　（3）おくび・胸やけ
      （4）吐き気・嘔吐　（5）腹痛　（6）吐血・下血
      （7）下痢　（8）便秘　（9）腹部膨満
      （10）黄疸　（11）肝性脳症
   2）検査・治療・処置を受ける患者の看護
      （1）胃液・十二指腸液検査　（2）造影検査　（3）内視鏡検査
      （4）肝生検　（5）肝シンチグラフィ　（6）腹部超音波検査
      （7）腹部コンピューター断層撮影検査
      （8）磁気共鳴画像検査　（9）薬物療法　（10）食事療法
      （11）手術療法　（12）放射線療法
   3）疾患をもつ患者の看護
      （1）食道疾患　（2）胃・十二指腸疾患
      （3）腸・腹膜疾患（ストーマ管理を含む）　（4）肝臓・胆嚢疾患
      （5）膵臓疾患

（周手術期）（10 時間）

1. 手術療法とは
2. 術前患者の看護
   1）患者の特徴
   2）看護の特徴
3. 術中患者の看護
   1）手術室における看護の役割
   2）全身麻酔の影響
   3）局所麻酔の影響
   4）手術侵襲

5）術中の体位とおこりうるリスク

4. 術後患者の看護

1）術直後から麻酔覚醒までの援助

2）麻酔覚醒から創傷の癒合・修復までの生体反応

授業の進め方

講義

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔5〕消化器（医学書院）

系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔4〕臨床看護総論（医学書院）

ナーシング・グラフィカ　成人看護学④　周手術期看護（メディカ出版）

参考図書

評価方法

終講時 客観式テスト（消化器：70 点、周手術期：30 点）

試験時間は時間数に含む。

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学Ⅲ	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	２年次	開講時期	前期	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

専門基礎分野で学んだ知識を踏まえ、内分泌・代謝機能障害のある患者を統合的に捉え、科学的根拠に基づく看護が展開できるよう教授する。

授業目標

内分泌・代謝機能障害をもつ患者の看護の方法を理解する。

腎・泌尿器機能障害をもつ患者の看護の方法を理解する。

授業概要

（内分沁・代謝）（12 時間）

1. 内分泌・代謝疾患をもつ患者の特徴
2. 内分泌疾患患者の看護
   1）下垂体疾患をもつ患者の看護
   2）甲状腺疾患をもつ患者の看護
   3）副甲状腺疾患をもつ患者の看護
   4）副腎疾患をもつ患者の看護
   5）副腎摘出術をうける患者の看護
3. 代謝疾患をもつ患者の看護
   1）糖尿病疾患をもつ患者の看護（インスリン自己注射・内服管理含む）
   2）高脂血症をもつ患者の看護
   3）肥満症患者の看護
   4）痛風・高尿酸血症をもつ患者の看護

（腎・泌尿器）（8 時間）

1. 腎・泌尿器疾患をもつ患者の看護
   1）症状に対する看護
      （1）浮腫　（2）高血圧　（3）排尿障害
      （4）尿失禁　（5）尿の性状異常　（6）疼痛
2. 内科的治療を受ける患者の看護
   1）疾患をもつ患者の看護
      （1）糸球体疾患患者の看護　（2）尿路感染症患者の看護
      （3）急性腎不全患者の看護　（4）慢性腎不全患者の看護
   2）透析治療を受ける患者の看護
3. 泌尿器科的治療を受ける患者の看護
   1）手術を受ける患者の看護

（女性生殖器）（8 時間）

1. 女性生殖器疾患を持つ患者の特徴
2. 女性生殖器疾患を持つ患者の看護
   1）外来・病棟における看護
   2）診療介助における看護
   3）症状とその病態に対する看護
   4）臓器別疾患・機能的疾患患者の看護
      （1）外陰部疾患　（2）膣疾患
      （3）子宮疾患　（4）卵管疾患
      （5）卵巣疾患　（6）骨盤疾患
      （7）乳腺疾患　（8）月経異常・月経随伴症状
      （9）不妊症・不育症　（10）高齢女性におこりやすい女性生殖器疾患
   5）治療・処置を受ける患者の看護
      （1）手術療法　（2）化学療法
      （3）放射線療法　（4）ホルモン療法
      （5）体外受精

授業の進め方

講義、演習

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔6〕内分泌・代謝（医学書院）
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔8〕腎・泌尿器（医学書院）
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔9〕女性生殖器（医学書院）

参考図書

評価方法

終講時 客観式テスト（内分泌・代謝：40 点、腎・泌尿器：30 点、女性生殖器：30 点）
試験時間は時間数に含む。

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学Ⅳ	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	２年次	開講時期	前期	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

専門基礎分野で学んだ知識を踏まえ、免疫機能障害・感染症疾患をもつ患者、血液造血器機能障害も持つ患者を統合的に捉え、科学的根拠に基づく看護が展開できるよう教授する。

また、放射線療法を受ける患者の看護を理解し、展開できるようにする。

授業目標

免疫機能障害・感染症疾患をもつ患者の看護の方法を理解する。

血液・造血器機能障害をもつ患者の看護の方法を理解する。

放射線療法を受ける患者の看護を理解する。

授業概要

（免疫機能）（6 時間）

1. アレルギー疾患をもつ患者の特徴
2. アレルギー疾患をもつ患者の看護
   1）症状に対する看護
   2）検査を受ける患者の看護
   3）治療を受ける患者の看護
   4）疾患をもつ患者の看護
3. 膠原病疾患をもつ患者の特徴
4. 膠原病疾患をもつ患者の看護
   1）症状に対する看護
   2）検査を受ける患者の看護
   3）治療を受ける患者の看護
   4）疾患をもつ患者の看護

（感染症）（6 時間）

1. 感染症患者の特徴
2. 感染症患者の看護
   1）症状に対する看護
   2）治療と検査を受ける患者の看護
   3）感染防御

（血液・造血器）（10 時間）

1. 血液・造血器疾患をもつ患者の特徴
2. 血液・造血器疾患をもつ患者の看護
   1）主要症状を有する患者の看護
      (1) 貧血のある患者の看護
      (2) 出血傾向のある患者の看護
   2）造血器腫瘍患者の看護

（1）白血病患者の看護
（2）悪性リンパ腫患者の看護
（3）造血幹細胞移植の看護

（放射線）（6 時間）
1．放射線診療と看護
1）放射線の医療への応用
2）癌と放射線診療
3）放射線治療と看護
4）放射線診断と看護
5）核医学と看護

授業の進め方

講義

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔11〕アレルギー・膠原病・感染症（医学書院）
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔4〕血液・造血器（医学書院）
系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔4〕臨床看護総論（医学書院）

参考図書

評価方法

終講時　客観式テスト
（免疫機能：20 点、感染症：20 点、血液・造血器：30 点、放射線：30 点）
試験時間は時間数に含む。

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学Ⅴ	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	２年次	開講時期	後期	授業回数	１４回
担当講師名	専任教員		講師所属	福岡水巻看護助産学校	
特記事項	実務経験のある教員による科目			臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行なう	

授業のねらい

健康レベルに応じた対象者の理解に必要な基礎知識と看護実践に有用な理論を学ぶ。

また、各健康レベルにある対象の特徴と、そのレベルに応じた援助方法を学ぶ。

授業目標

各健康レベルにある対象の看護において必要な看護技術について、その理論と実践方法が理解できる。

授業概要

1. 急性期看護
   1）急性の健康障害がある患者の病態と治療等をふまえた急性期の特徴
   2）生命危機状況にある対象に必要な基本的看護援助
   3）周手術期看護の考え方、必要な看護

2. 慢性期看護
   1）慢性期看護の特徴
   2）慢性期にある患者の特徴
   3）慢性疾患の治療の特徴
   4）生活習慣病の予防とヘルスプロモーションの促進

3. 終末期看護
   1）終末期の特徴
   2）終末期看護・緩和ケアの考え方
   3）患者とその家族のニーズ

4. 看護過程展開
   健康障害のある事例に対して中範囲理論を用いながら看護過程を展開する

【担当からのメッセージ】

授業時に予習、復習について説明します。

授業中の質問など積極的に学んで下さい。

授業の進め方

講義、演習

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔4〕臨床看護総論（医学書院）

参考図書

ナーシング・グラフィカ　成人看護学④　周手術期看護（メディカ出版）

評価方法

終講時　客観式テスト＋授業参加状況(出席、課題提出、演習)（100 点）

試験時間は時間数に含む。

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	老年看護学概論	単位（授業時間／時間数）	１（１４／１５）
開講年次	１年次	開講時期	後期	授業回数	７回
担当講師名	専任教員		講師所属	福岡水巻看護助産学校	
特記事項	実務経験のある教員による科目			臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行なう	

授業のねらい

老年看護学概論では、人生の最終段階にある高齢者の理解と高齢者観を育むことをねらいとする。加齢に伴う身体的、心理的、社会的側面から高齢者の健康や生活への影響について理解する。また、わが国における高齢者の保健医療福祉の現状と課題を学習し、高齢者及び高齢社会に対する理解を深める。

授業目標

1. 老年看護学の概要を理解する。
2. 高齢者の身体的、心理的、社会的側面の特徴について理解する。
3. 高齢者を取り巻く社会の様相の統計的側面について理解する。
4. 高齢社会における保健・医療・福祉の動向について理解する。
5. 高齢者のリスクを把握し、安心・安全を確保するリスクマネジメントについて理解する。

授業概要

回　数	内　容
第１回	第１章　老いるということ 加齢と老化、加齢に伴う身体的・心理的・社会的側面の変化
第２回	第１章　老いを生きるということ 老年期の発達課題
第３回	第２章　超高齢社会と社会保障 超高齢社会の統計的輪郭
第４回	第２章　超高齢社会と社会保障 保健医療福祉の動向、高齢者を支える他職種連携と看護活動の多様化
第５回	第２章　超高齢社会と社会保障 高齢者の権利擁護
第６回	第10章　高齢者のリスクマネジメント 高齢者と医療安全、救命救急
第７回	第10章　高齢者のリスクマネジメント 高齢者と災害

授業の進め方

講義、グループワーク、発表

教科書　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学（医学書院）

参考図書　国民衛生の動向（厚生統計協会）
ナーシング・グラフィカ　老年看護学　老年看護の実践（メディカ出版）

評価方法

終講時 客観的テスト、授業参加度にて総合的に評価。
試験時間は時間数に含む。

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	老年看護学Ⅰ	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	２年次	開講時期	前期	授業回数	１４回
担当講師名	専任教員		講師所属	福岡水巻看護助産学校	
特記事項	実務経験のある教員による科目			臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行なう	

授業のねらい

高齢者は、症状が非定型的であることで、身体的徴候がとらえにくく、要因が複雑に絡み合っているために身体的徴候が慢性的に経過しやすく生活に障害をきたしやすい。また、健康障害をかかえる高齢者のライフサイクルやヒストリーをふまえた心身のアセスメントの視点・方法を学ぶ。以上を踏まえ、個体差を考慮した健康障害に応じた援助の必要性を理解し、高齢者の QOL を重視した生活指向の看護を家族への援助も含め学ぶ。

授業目標

1. 高齢者への看護を検討する際に必要不可欠な 4 つの視点を理解する。
2. 老年看護の特徴を理解する。
3. 高齢者のライフスタイルやヒストリーの聴取の必要性を理解する。
4. 加齢変化により起こる症状と看護について理解する。

授業概要

1	第 3 章 B. 老年看護の役割 ①注目すべき 4 つの側面	8	⑤消化器
2	②老年看護の特徴	9	⑥ホルモンの分泌
3	第 4 章 A. ヘルスアセスメントの基本	10	⑦泌尿・生殖器
4	第 4 章 B. 身体の加齢変化とアセスメント ①皮膚とその付属品	11	⑧運動系
5	②視聴覚とそのほかの感覚	12	第 6 章 A. 症候のアセスメントと看護 ①発熱、②痛み、⑦倦怠感
6	③循環器	13	④脱水、⑤嘔吐
7	④呼吸器	14	③掻痒（かゆみ）、⑥浮腫、⑧褥瘡

授業の進め方

講義、グループワーク

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学（医学書院）
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護 病態・疾患論（医学書院）

参考図書

評価方法

課題レポート提出状況、授業態度および終講時の客観式テストにて総合評価する。
試験時間は時間数に含む。

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	老年看護学Ⅱ	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	２年次	開講時期	通年	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

加齢現象により身体的・生理的な諸機能が低下していく。その為、老年者の心身の変化を捉え、老年者特有の疾病・症状を知り検査や治療に対する援助方法を理解する必要がある。

また、健康障害をもつ高齢者が、できるだけ自立した状態で、生活が送れるように基本的援助の方法を教授し、QOL を高めるための看護の役割が理解できるように教授する。

授業目標

老年期に多い疾患にある患者の看護（運動器機能障害にある患者）の看護を理解する。

自立生活の拡大に向けた援助技術を理解する。

授業概要

1. 運動器機能障害を持つ患者の看護（関：14 時間）
   1）運動器機能障害をもつ患者の特徴
   2）運動器機能障害をもつ患者の看護
      (1) 援助のための知識と技術
   3）自立生活の拡大に向けた援助技術
      (1) 日常生活動作能力のアセスメントとケアの技法
      (2) 転倒予防のアセスメントとケアの技法
   4）症状に対する看護
   5）検査を受ける患者の看護
   6）保存療法を受ける患者の看護
   7）手術を受ける患者の看護
   8）疾患を持つ患者の看護
2. 高齢者の生活機能を整える看護の展開（玉井：14 時間）
   1）日常生活を支える基本動作と看護ケア
   2）食事と看護ケア
   3）排泄と看護ケア
   4）清潔と看護ケア
   5）生活リズムと看護ケア
   6）コミュニケーションと看護ケア

授業の進め方

講義

教科書

新体系　看護学全書　成人看護学〔10〕運動器（医学書院）
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　（医学書院）
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護 病態・疾患論（医学書院）

参考図書

評価方法

終講時　客観式テスト（運動器：50 点、生活拡大：50 点）
試験時間は時間数に含む

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	老年看護学Ⅲ	単位（授業時間／時間数）	１（１４／３０）
開講年次	２年次	開講時期	通年	授業回数	７回
担当講師名	専任教員		講師所属	福岡水巻看護助産学校	
特記事項	実務経験のある教員による科目			臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行なう	

授業のねらい

治療を必要とする高齢者の看護では、検査技術や検査機器の向上により、高齢者の検査が多岐にわたり実施され、侵襲の程度も多様となった。適切な援助を行う為には、高齢者の特徴と検査の目的・内容・方法などについて理解する。

エンドオブライフケアでは、人生の最期の数年間をどこで、どのように過ごすのか、大きな問題である。みずからの希望する人生の最期を自分らしく過ごすためには、どのような関わりが必要か医療従事者としてのケアについて考える。

授業目標

１．治療（検査・薬物療法・手術・入院）を受ける高齢者の看護について理解する。

２．人生の最終段階における医療とケアのあり方について理解する。

授業概要

回　数	内　容
第１回	第７章　治療を必要とする高齢者の看護 検査を受ける高齢者の看護
第２回	第７章　治療を必要とする高齢者の看護 薬物療法を受ける高齢者の看護
第３回	第７章　治療を必要とする高齢者の看護 手術を受ける高齢者の看護
第４回	第７章　治療を必要とする高齢者の看護 リハビリテーションを受ける高齢者の看護
第５回	第７章　治療を必要とする高齢者の看護 入院治療を受ける高齢者の看護
第６回	第８章　エンドオブライフケア エンドオブライフケアの概念、「生ききる」ことを支えるケア
第７回	第８章　エンドオブライフケア 意思決定への支援、末期段階に求められる援助

授業の進め方

講義、グループワーク、発表

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学（医学書院）

参考図書

ナーシング・グラフィカ　老年看護学　老年看護の実践（メディカ出版）

評価方法

終講時　客観式テスト（50 点）、授業参加度にて総合的に評価。

試験時間は時間数に含む。

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	老年看護学Ⅲ	単位（授業時間／時間数）	１（１４／３０）
開講年次	２年次	開講時期	通年	授業回数	７回
担当講師名	専任教員		講師所属	福岡水巻看護助産学校	
特記事項	実務経験のある教員による科目			臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行なう	

授業のねらい

高齢者の健康について、健康日本 21 また介護予防としての取り組みを理解し、現在の高齢者の現状について理解を深める。「住み慣れた場所で最後まで」を実現する地域包括ケアシステムについても学習し、地域で生活している高齢者を知る必要がある。また、高齢者が生活している様々な場所を理解する。

看護過程の展開に関しては、高齢者の健康課題をアセスメントする際、生活場面から高齢者を全人的に「その人らしさ」を理解していく。高齢者のもてる力をアセスメントする視点を学習し、高齢者の生活機能障害の特徴とその原因と、生活機能の未充足を満たす看護、老年症候群の原因と高齢者の生活に及ぼす影響、高齢者自身のセルフケアを支援する看護について習得する。また、看護展開する中で、加齢変化に対する配慮と、廃用症候群発生の予防に対する視点を身につける。

授業目標

1. 高齢者の健康についての取り組みによる高齢者の現状を知る。
2. 高齢者の生活・療養の場における看護を理解する。
3. 対象理解において、老年看護における理論を活用することができる。
4. 事例を通して生活機能障害のある高齢者が持っている力（強み）と支援が必要な内容を分析でき、看護問題の抽出、具体的な看護計画の立案ができる。

授業概要

1	第 9 章 A.高齢者とヘルスプロモーション
2	第 9 章 B.保健医療福祉施設および居住施設における看護
3	第 9 章 C.治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護
4	第 3 章 C.老年看護における理論・概念の活用
5	付章 A.看護過程の考え方　事例展開①
6	付章 A.看護過程の考え方　事例展開②
7	付章 A.看護過程の考え方　事例展開②　検討会

授業の進め方

講義、グループワーク、検討会

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔7〕脳・神経（医学書院）
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学（医学書院）
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護 病態・疾患論（医学書院）

参考図書

生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図　（医学書院）
配布資料

評価方法

終講時 客観式テスト＋授業取り組み状況、課題提出状況（50 点）
試験時間は時間数に含む

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	小児看護学概論	単位（授業時間／時間数）	１（１４／１５）
開講年次	１年次	開講時期	後期	授業回数	７回
担当講師名	専任教員		講師所属	福岡水巻看護助産学校	
特記事項	実務経験のある教員による科目			臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行なう	

授業のねらい

小児期は養育者や環境の影響を受けて、心身ともに成長・発達を急速に遂げる時期ということ、および将来の人格形成上重要な時ということが認識できる。そして、「嬉々として遊ぶ姿こそ子どもの本質」であることを知り、子どもも社会の一構成員であることを見据えた関わりについて考える。

授業目標

各発達期の形態的発達・機能的発達、認知・社会的発達の基本的知識を身につけるとともに、養育者との関係を理解して支援することの重要性を学ぶ。また、子どもは養育的環境で育まれる権利を有し、おとなとは同質ではないが同格の権利をもつ主体的存在であることを理解し小児看護倫理が実践できるとともに小児看護の特性を理解する。

授業概要

１．　子どもの成長・発達
２．　新生児
３．　乳児
４．　幼児
５．　学童期・思春期・青年期

【担当からのメッセージ】

あなたは子どもが好きですか？苦手ですか？　近年の子どもと家族を取り巻く社会は様々な状況に置かれていることが多い。このような状況にある子どもが、最善の利益が守られ健やかに成長・発達できるよう、個々の発達段階に応じた援助を学び、子どもと家族に対する看護の役割を考えていきましょう。

授業の進め方

講義、演習

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学〔1〕小児看護学概論・小児臨床看護総論（医学書院）

参考図書

国民衛生の動向（厚生統計協会）

評価方法

課題・グループワーク参加度・レポートおよび終講試験（客観時テスト）の総合評価
試験時間は時間数に含む。

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	小児看護学Ⅰ	単位（授業時間／時間数）	１（１４／３０）
開講年次	２年次	開講時期	通年	授業回数	７回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

未成熟な子どもの器官や機能は、発達途上にあるがゆえに発症し得る場合も少なくないこと、症状の程度も発達期により重篤になりやすいということを理解する。そして、子どもは自らことばでうまく訴えることができない存在であることを想起し、愛護的ｹｱの重要性を実感し、小児看護学Ⅱへ繋げたい。

授業目標

病気の全体像を概観し、体の構造・働きと病気との関係を学び、発達期の特性から症状・徴候を捉える。

授業概要

1. 母子感染・未熟児
2. 先天性の障がい　発達の障がい
3. 消化吸収機能の障がい
4. 内分泌機能の障がい
5. 排泄機能の障がい
6. 呼吸機能の障がい
7. 防衛調整機能の障がい
8. 循環機能の障がい
9. 造血機能の障がい
10. 悪性新生物
11. 精神機能の障がい
12. 運動・感覚機能の障がい
13. 事故と外傷・虐待

授業の進め方

講義

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学〔2〕小児臨床看護各論（医学書院）

参考図書

評価方法

終講時　客観式テスト（50 点）

試験時間は時間数に含む

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	小児看護学Ⅰ	単位（授業時間／時間数）	１（１４／３０）
開講年次	２年次	開講時期	通年	授業回数	７回
担当講師名	専任教員		講師所属	福岡水巻看護助産学校	
特記事項	実務経験のある教員による科目			臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行なう	

授業のねらい

様々な状況にある小児と家族への看護について理解する。状況に応じた小児と家族への援助、小児期に発生頻度の高い症状の発生因子とメカニズムを理解し、健康障害をもつ子どもとその家族への関わり方について考えさせたい。

授業目標

事例を通して、小児各期の特徴を踏まえた上で、健康問題から受ける影響を理解し、看護への方法を学ぶ。小児期特有の特徴を理解し様々な発達段階の小児とその家族に対して、健康問題への取り組みと健康な成長発達のための援助や、母子関係の重要性から家族を含めた援助について理解する。そして、健康障害による成長発達への影響を最小限にし、健康な成長発達が遂げられるよう、臨床の場で看護師の役割が実践できる能力を養う。

授業概要

1．小児における疾病の経過と看護

1）慢性期にある子どもと家族の看護

・気管支喘息の子どもの看護

・Ⅰ型糖尿病の子どもの看護

2）急性期にある子どもと家族の看護

・川崎病の子どもの看護

・ネフローゼ症候群の子どもの看護

3）終末期の子どもと家族の看護

・白血病の子どもの看護

4）周手術期の子どもと家族の看護

・ファロー四徴症の子どもの看護

5）障害のある子どもと家族の看護

・脳性麻痺の子どもの看護

6）子どもの虐待と看護

授業の進め方

講義、演習

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学〔1〕小児看護学概論・小児臨床看護総論（医学書院）

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学〔2〕小児臨床看護各論（医学書院）

参考図書

評価方法

課題・グループワーク参加度・レポートおよび終講試験（客観時テスト）の総合評価

試験時間は時間数に含む。

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	小児看護学Ⅱ	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	２年次	開講時期	前期	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

小児看護学概論の既習知識を受けて、一人ひとりの子どもの権利を擁護し、子どもに安全で安楽な技術を提供することについて考えるとともに、子どもを主体的存在として捉え、健康障がいをもつ子どもとその家族に対する援助技術の意義と方法を理解する。小児看護を実践するうえで必要な基本的看護技術を習得し、看護実践能力の向上を図る。そして、具体的な子どもとの関わりを小児看護学Ⅲのプレパレーション演習につなげたい。

授業目標

言語能力が未熟な小児への観察力を身につけ、検査・処置を受ける子どもと家族への看護や対象のニーズに合わせた看護技術を習得する。また、生活経験の未熟さゆえ陥る不安や恐怖に対する、発達段階や状況に応じた関わり方を理解する。

授業概要

1. アセスメントに必要な技術
   1）コミュニケーション　2）バイタルサイン　3）身体計測
2. 身体的アセスメント
3. 症状を示す子どもの看護
   1）不きげん　2）啼泣　3）痛み　4）呼吸困難　5）チアノーゼ　6）ショック
   7）意識障害　8）けいれん　9）発熱　10）嘔吐　11）下痢　12）便秘　13）脱水
   14）浮腫　15）出血　16）貧血　17）発疹　18）黄疸
4. 検査・処置を受ける子どもの看護
   1）与薬　2）輸液管理　3）抑制　4）検体採取　5）罨法　6）清潔　7）経管栄養
   8）排泄　9）呼吸症状の緩和
5. 救命救急の技術
6. ハイリスク新生児と家族の看護

【担当からのメッセージ】

子どもの安全・安楽・自立を考慮し、最善の利益を守るための看護について一緒に学習しましょう。予習・復習をして積極的に授業へ参加しましょう。

授業の進め方

講義、演習、グループワーク

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学〔1〕小児看護学概論・小児臨床看護総論（医学書院）
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学〔2〕小児臨床看護各論（医学書院）

参考図書

評価方法

課題、演習・グループワーク参加度および終講試験（客観式テスト）の総合評価。
試験時間は時間数に含む。

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	小児看護学Ⅲ	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	２年次	開講時期	後期	授業回数	１４回
担当講師名	専任教員		講師所属	福岡水巻看護助産学校	
特記事項	実務経験のある教員による科目			臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行なう	

授業のねらい

小児看護学の既習知識を受け、小児期の健康障害がその後の長い人生の QOL に大きく関わるものであることを理解し、健康障害をもつ子どもとその家族への関わり方について考えさせたい。

授業目標

小児期の健康障害は発達課題をもった子どもの生活に大いに影響することを理解し、子どもが子どもらしく存在できるよう支援することの重要性を学ぶ。そのためには「子どもが成長発達の中で病気かかっている」ことを知り、「病気の中で成長発達を遂げているのではない」ことの違いを確実に理解する。そして、様々な状況にある子どもと家族への関わり手法を学び、子どもが本来もつ「生きる力」が発揮できるよう、保健・医療・福祉・教育の場で看護師の役割が実践できる能力を養う。

授業概要

1. 小児看護の特徴と理念
2. 家族の特徴とアセスメント
3. 子どもと家族を取り巻く社会
4. 病気・障害を持つ小児と家族の看護
5. 小児の状況環境に特徴づけられる看護
   1）入院中の小児と家族の看護
   2）外来における小児と家族の看護
   3）在宅療養中の小児と家族の看護
   4）災害時の小児と家族の看護
6. 子どもの虐待と看護
7. 事例展開：ネフローゼ症候群の患児の看護過程

【担当からのメッセージ】

子どものころに病院を受診した体験などを思い出しながら、病気をもつ子どもと家族への看護について学びを深めていきましょう。授業への参加度も評価します。積極的に参加しましょう。

授業の進め方

講義、演習

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学〔1〕小児看護学概論・小児臨床看護総論（医学書院）
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学〔2〕小児臨床看護各論（医学書院）

参考図書　国民衛生の動向（厚生統計協会）

評価方法

課題・グループワーク参加度・レポートおよび終講試験（客観時テスト）の総合評価
試験時間は時間数に含む。

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	母性看護学概論	単位（授業時間／時間数）	１（１４／１５）
開講年次	１年次	開講時期	後期	授業回数	７回
担当講師名	専任教員		講師所属	福岡水巻看護助産学校	
特記事項	実務経験のある教員による科目			臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行なう	

授業のねらい

母性看護学は、母子と家族および女性を看護の対象とし、ライフステージ各期における健康の支援と看護援助について考え学ぶ学問である。リプロダクティブヘルス/ライツの観点から、身体的・心理的・社会的側面に着目し、女性の健康課題と看護のニーズを考えさせたい。また母性に関する話題を通して、生命及び性に関わることへの興味関心を高め、看護実践の動機付けとしたい。

授業目標

1. 母性看護の基盤となる概念について理解できる。
2. 女性のライフステージ各期における健康上の課題と看護ニーズを理解できる。
3. 母性看護の役割と課題を理解できる。

授業概要

1. 母性看護の概念
2. 母子の健康生活と法律・制度
3. 性と生殖の機能のメカニズム
4. 女性のライフステージ各期における看護
5. リプロダクティブヘルスケア

【担当からのメッセージ】

みなさんは女性の健康、性の健康について考えたことがありますか？母性看護学概論では、性と生殖の健康を考えることを通し、自分自身の身体に興味を持ち、命と健康について考える力を養って欲しいと思います。またこの授業を通して母性看護への興味・関心が向上することを期待しています。

授業の進め方

講義、グループワーク

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学〔１〕母性看護学概論（医学書院）

参考図書

国民衛生の動向（厚生統計協会）

評価方法

終講時　客観式テスト(100 点)

試験時間は時間数に含む。

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	母性看護学Ⅰ	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	２年次	開講時期	前期	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

女性のライフサイクルにおける最も健康上の支援が必要な周産期の中で、妊娠・分娩期のメカニズムとその特徴および健康問題を理解する。また、妊産婦の身体的・心理的・社会的変化に適応するためのセルフケア、健康増進やマイナートラブルおよび家族への援助を学ぶ。

授業目標

1. 妊娠・分娩期における身体的・心理的・社会的変化および健康問題について理解できる。
2. 妊娠・分娩期におけるセルフケアと健康増進を促す看護援助について理解できる。
3. 妊娠・分娩期にある母子の健康状態を観察・評価する為の看護技術が実施できる。

授業概要

1. 妊娠期における看護　（田原：20 時間）
   1）妊娠期の身体的特性　　2）妊娠期の心理・社会的変化
   3）妊婦と胎児のｱｾｽﾒﾝﾄ　　4）妊婦と家族の看護
   5）妊娠期の健康問題と看護
      （1）妊娠持続期間の異常　（2）感染症　（3）常位胎盤早期剥離
      （4）前置胎盤　（5）妊娠高血圧症候群　（6）妊娠糖尿病
      （7）血液型不適合妊娠　（8）異所性妊娠　（9）ハイリスク妊婦の看護
      （10）多胎妊娠　（11）胎児機能不全
2. 分娩期における看護　（上川：8 時間）
   1）分娩の要素　　2）分娩の経過
   3）産婦・胎児・家族のｱｾｽﾒﾝﾄ　　4）産婦と家族の看護
   5）分娩期の看護の実際
   6）分娩期の健康問題と看護
      （1）前置胎盤　（2）帝王切開　（3）分娩時異常出血　（4）陣痛異常

＜演習＞ 妊婦体験、腹囲・子宮底長測定、レオポルド触診、児心音測定、分娩監視装置の取り扱い、妊婦体操指導、産痛緩和、胎盤測定

【担当からのメッセージ】

妊娠・出産をイメージすることは難しいかもしれませんが、解剖生理学Ⅳ(生殖器)や母性看護学概論で学んだ知識を活かし、新しい生命の誕生における支援のあり方を積極的に学びましょう。

授業の進め方

講義、グループワーク、演習

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学〔２〕母性看護学各論（医学書院）

参考図書

マタニティ診断ガイドブック(医学書院)
看護実践のための根拠がわかる 母性看護技術（メヂカルフレンド社）

評価方法

終講時　客観式テスト（100 点）
試験時間は時間数に含む。

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	母性看護学Ⅱ	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	２年次	開講時期	通年	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

産褥期の身体的変化や新しい家族を迎えることで生じる心理的変化、社会的役割の変化、健康問題について学び、母性看護の対象がセルフケア能力を高められる看護について考えさせたい。また新生児の生理やヘルスアセスメントを理解し、新生児期における看護について学ばせたい。

授業目標

1. 産褥期における生理的変化および健康問題と看護が理解できる。
2. 新生児期における生理的変化と看護が理解できる。

授業概要

1. 産褥期における看護
   1）産褥経過
   2）褥婦のアセスメント
   3）褥婦と家族の看護
   4）施設退院後の看護
   5）産褥期の健康問題と看護
      (1) 子宮復古不全　(2) 産褥熱　(3) 乳腺炎
      (4) 産後精神障害　(5) 排尿障害・尿路感染　(6) 帝王切開術後

2. 新生児期における看護
   1）新生児の生理
   2）新生児のアセスメント
   3）新生児の看護

＜演習＞

新生児のバイタルサイン測定　新生児計測　沐浴　黄疸測定　育児技術　授乳方法　哺乳

授業の進め方

講義、グループワーク、演習

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学〔2〕母性看護学各論（医学書院）

参考図書

看護実践のための根拠がわかる　母性看護技術（メヂカルフレンド社）

評価方法

終講時　客観式テスト（100 点）

試験時間は時間数に含む。

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	母性看護学Ⅲ	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	２年次	開講時期	通年	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

正常経過をたどる褥婦の看護過程を通し、マタニティサイクルにある母子と家族の健康課題を捉え、家族が育児を通してセルフケア能力を高められるような援助方法を学ぶ。また、新生児期にみられる健康問題、子どもを産み育てるにあたり生じる問題など特別なニードのある母子の看護および周産期医療のシステムについて理解させたい。

授業目標

1. 産褥期の看護過程が理解できる。
2. 新生児の異常と看護について理解できる。
3. 遺伝と不妊の健康課題について、治療および看護が理解できる。
4. 周産期医療システムと母子保健施策について理解できる。

授業概要

1. 母性看護における看護過程（正常経過妊婦と褥婦の事例展開）
   1）母性看護における対象の把握
   2）看護問題の明確化
   3）看護計画の立案と実施
2. 新生児の異常　（白川：4 時間）
   （1）新生児仮死　（2）分娩外傷　（3）低出生体重児　（4）高ビリルビン血症
3. 遺伝相談、不妊治療と看護
4. 周産期医療のシステム（母性看護の場と職種）と母子保健施策
   （1）母体搬送　（2）新生児搬送　（3）チーム医療
   （4）周産期医療ネットワーク　（5）母子保健に関連する施策

【担当からのメッセージ】

母性看護の対象は健康レベルが高いことが多く、健康の保持・増進への看護が求められます。母子とその家族が退院後も安心して生活できるよう、さまざまな視点から看護を考えられるように考察を深めましょう。

また、授業開始前に学習課題を提示します。期日までに事前学習を提出してください。グループ学習の機会も増えるので協力して演習しましょう。

授業の進め方

講義、グループワーク、演習

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学〔2〕母性看護学各論（医学書院）

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学〔1〕母性看護学概論（医学書院）

参考図書

マタニティ診断ガイドブック　（医学書院）

評価方法

終講時　客観式テスト（100 点）

試験時間は時間数に含む。

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	精神看護学概論	単位（授業時間／時間数）	１（１４／１５）
開講年次	１年次	開講時期	後期	授業回数	７回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

精神障害の予防・治療、精神障害者の社会参加、精神的健康の保持・増進に関する精神保健とは、精神的健康とは何かを理解し、精神看護の役割を学ぶ。また、精神看護を実践するうえでの根拠を学ぶことで、精神障害をもつ人への理解につなげていってほしい。

授業概要

1	精神保健の目的と精神保健医療政策を理解する
2	精神的健康を支える要因を見出し、精神的健康とは何かを理解する
3	地域精神保健における第１次予防、第２次予防、第３次予防から、リカバリーを機軸とした精神医療、精神看護とその役割を理解する。
4	精神の健康とは何かを考え、精神障害者の法律的定義などにより、精神障害について理解する。
5	危機理論とストレス学説を理解し、精神（心）の危機状況と精神保健について考える。
6 7	事例を通して、「精神を病む」とはどういうものなのか、本人やその周囲にとっての「生きにくさ」とは何なのか、それらを治療し援助するとはどういうことなのかを考える。
8	終講時試験

授業の進め方

講義、グループワーク、DVD 鑑賞

予習：指示された項目について、ノート整理して授業に臨む。

教科書

新体系　看護学全書　精神看護学１　精神看護学概論・精神保健（メヂカルフレンド社）

新体系　看護学全書　精神看護学２　精神障害をもつ人の看護（メヂカルフレンド社）

参考図書

評価方法

終講時 客観的テスト（100 点）

試験時間は時間数に含む

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	精神看護学Ⅰ	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	２年次	開講時期	前期	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

人間の心のはたらきと行動との関係を学習し、こころの障害における関わり方の示唆を得てほしい。

授業目標

人間の各発達段階における健康な心の発達の理解と心の働きを知るための理論や方法を理解する。

授業概要

精神看護学①

第１章　「精神（心)」のとらえかた

第３章　家族と精神（心）の健康

第４章　暮らしの場と精神（心）の健康

第６章　現代社会と精神（心）の健康

授業の進め方

講義

教科書

新体系　看護学全書　精神看護学１　精神看護学概論・精神保健（メヂカルフレンド社)

新体系　看護学全書　精神看護学２　精神障害をもつ人の看護（メヂカルフレンド社)

参考図書

評価方法

終講時 客観的テスト（100 点）

試験時間は時間数に含む

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	精神看護学Ⅱ	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	２年次	開講時期	通年	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		

授業のねらい

精神障害をもつ患者の精神症状や精神状態像がイメージできる。

授業目標

精神障害の症状・治療・検査について理解する。

授業概要

精神看護学①

第７章　精神保健医療福祉の歴史と現在の姿

精神看護学②

第２章　精神障害をもつ人の抱える症状と診断のための検査

第３章　主な精神疾患/障害と治療法

第８章　わが国の精神看護の発展

授業の進め方

講義

教科書

新体系　看護学全書　精神看護学１　精神看護学概論・精神保健（メヂカルフレンド社）

新体系　看護学全書　精神看護学２　精神障害をもつ人の看護（メヂカルフレンド社）

参考図書

評価方法

終講時 客観的テスト（100 点）

試験時間は時間数に含む

領 域	専門分野Ⅱ	授業科目	精神看護学Ⅲ	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	２年次	開講時期	通年	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

精神障害患者の特徴的症状を理解した上で､その方たちが抱えている生きづらさとは何かを知り、どのように関わって行けばいいのか精神看護におけるケアの方法を学ぶ。

また患者―看護師間において治療的関わりとはどういうものか、プロセスレコードを用いながら自己洞察できるようになってほしい。

授業目標

1. 精神障害のある患者を知り、治療的関係成立が理解できる。
2. 精神障害を持つ患者の自立や社会復帰に向けた援助を理解できる。
3. 様々な精神疾患についてどのようなことが看護上の問題となりうるのか理解できる。

授業概要

精神看護学②

第１章　精神医療・看護の対象者：精神（心）を病むということ

「精神（心）を病む、精神障害とスティグマ、精神障害をもつ人はどのような経験し感じているか、精神障害とともに生きる」

第４章　精神障害をもつ人と「患者 - 看護師」関係の構築

「精神障害をもつ人とのかかわりかた、精神障害をもつ人とのコミュニケーション、精神障害をもつ人との関係の振り返り」

第６章　精神障害をもつ人への看護

「精神科病棟という治療的環境と患者の生活、事例で学ぶ精神疾患/障害をもつ患者の看護、事例で学ぶ身体疾患を合併している」

第７章　精神障害をもつ人の地域における生活への支援

「地域精神保健福祉と社会参加、精神障害をもつ人の地域生活支援の実際、精神障害をもつ人を看護する家族への支援」

授業の進め方

講義、グループワーク、動画視聴

教科書

新体系　看護学全書　精神看護学２　精神障害をもつ人の看護（メヂカルフレンド社）

参考図書

新体系　看護学全書　精神看護学１　精神看護学概論・精神保健（メヂカルフレンド社）

評価方法

終講時 客観的テスト（100 点）

試験時間は時間数に含む。

領 域	統合分野	授業科目	在宅看護論概論	単位（授業時間／時間数）	１（１４／１５）
開講年次	１年次	開講時期	後期	授業回数	７回
担当講師名	専任教員		講師所属	福岡水巻看護助産学校	
特記事項	実務経験のある教員による科目			臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行なう	

授業のねらい

授業開始にあたって、我が国の在宅看護の歴史と変遷を振り返り、在宅看護が社会情勢と密接に関係していることを紹介し、在宅看護論学習の導入を図る。その上で在宅看護の目的と特徴を学ぶ。また、看護の対象である家族全体を支える地域包括ケアシステムについて学び、在宅看護もその一翼を担って、他の社会資源と協働することを理解する。

在宅療養への支援として、在宅療養へのスムーズな移行をサポートする外来看護や退院支援前を学び、病院看護と在宅看護が連続して療養者と家族を支えることを学ぶ。さらに在宅看護の実践に必要な権利擁護やリスクマネジメント、多職種連携の考えを学ぶ。

授業目標

在宅看護の目的と特徴、対象、看護実践に必要な概念を学ぶ。

授業概要

1. 日本の看護は在宅看護から始まった!?
2. 在宅看護の目的、看護師の役割
3. 訪問看護の対象者と状態別の看護
4. 介護者の現状と家族への支援
5. 地域包括ケアシステムと在宅看護
6. 在宅看護の提供方法、退院調整・退院支援
7. 在宅看護の基本となるもの

【担当からのメッセージ】

在宅看護は、地域の様々な社会資源と協働して療養者と家族を支えています。病院看護から視野を広げて興味を持ってくれると嬉しいです。在宅看護を理解する上で重要な保険制度や福祉制度も紹介します。苦手意識を持たず、一緒に学んでいきましょう。

授業の進め方

講義（テキスト、資料配布をもとに）、DVD 視聴、グループワーク

教科書

系統看護学講座　統合分野 在宅看護論（医学書院）

参考図書

評価方法

終講時　客観式テスト（100 点）

試験時間は時間数に含む。

領 域	統合分野	授業科目	在宅看護論Ⅰ	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	２年次	開講時期	前期	授業回数	１４回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

医療的ケアや看護が必要であっても在宅療養が可能となったが、在宅療養への移行や継続にあたっては、療養者本人だけでなく家族や在宅生活をサポートするさまざまな職種が重要な役割を果たす。そのため、在宅看護の対象を療養者本人だけでなく家族を含めてとらえさせる。また、関係職種との連携や社会資源の活用の重要性を学ばせる。

また、在宅療養者の権利や在宅看護活動の基本概念を学び、施設内の看護活動とは異なる在宅看護の特性を学ばせる。

授業目標

在宅看護の看護活動、関係職種と社会資源、在宅看護の機能と役割について理解する。

授業概要

1. 在宅看護の対象、目標
   1）在宅療養の対象
   2）在宅療養の成立条件
2. 在宅療養者への看護活動
   1）在宅看護のめざすもの
   2）在宅看護と家族
3. 在宅看護の実際
   1）訪問看護の特徴
   2）訪問看護ステーション
   3）訪問看護の実際
   4）訪問看護の記録
4. 関連職種との連携
   1）地域包括ケアシステム
   2）ケアマネジメントと看護
   3）関連職種との連携
5. 在宅ケアを支える制度と社会資源
   1）社会資源活用における看護の役割
   2）在宅の医療保険制度
   3）高齢者の在宅療養を支える制度と社会資源
   4）障害者の在宅療養を支える制度と社会資源
   5）在宅難病療養者を支える制度と社会資源
   6）子どもの療養者を支える制度と社会資源
   7）在宅療養者の権利擁護のための制度と社会資源

授業の進め方

講義（スライド・ビデオ・プロジェクター使用）

教科書

ナーシング・グラフィカ　在宅看護論〔1〕地域療養を支えるケア（メディカ出版）

写真でわかる訪問看護アドバンス(Web 動画付)（インターメディカ）

参考図書

評価方法

終講時 客観的テスト（100 点）

試験時間は時間数に含む。

領 域	統合分野	授業科目	在宅看護論Ⅱ	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	２年次	開講時期	通年	授業回数	１４回
担当講師名	専任教員		講師所属	福岡水巻看護助産学校	
特記事項	実務経験のある教員による科目			臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行なう	

授業のねらい

在宅看護では、療養者の日常生活を「生活行為」として総合的にみていくことが必要であり、療養者と家族が「生活する」ことを支えていくことが重要となる。在宅の環境は個別性に富む。療養者の疾患や障害も多様である中、個々に求められる必要な看護技術を提供していくことになる。

在宅看護でよく実践される日常生活援助や医療技術とそれに伴う看護を教授する。

授業目標

在宅での基本的な生活援助技術や医療技術に伴う看護を学ぶ。

授業概要

在宅における援助技術

1、生活ケアと医療的ケア

2、生活ケアの援助技術

3、医療的ケアの援助技術

在宅看護における安全と健康危機管理

＜演習＞

食の援助・ストーマケア

授業の進め方

講義、演習（実習室）

教科書

ナーシング・グラフィカ　在宅看護論〔1〕地域療養を支えるケア（メディカ出版）

写真でわかる訪問看護アドバンス（Web 動画付）（インターメディカ）

参考図書

系統看護学講座　統合分野　在宅看護論（医学書院）

評価方法

終講時　客観式テスト・課題・演習・グループワーク参加状況の総合評価（100 点）

試験時間は時間数に含む。

領 域	統合分野	授業科目	在宅看護論Ⅲ	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	２年次	開講時期	通年	授業回数	１４回
担当講師名	専任教員		講師所属	福岡水巻看護助産学校	
特記事項	実務経験のある教員による科目			臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行なう	

授業のねらい

医療の進歩や介護サービスの普及で在宅療養しやすくなり、終末期でも在宅療養したい人々が増えている。一方で家族の介護力は低下し、介護保険サービス等の多様な社会資源を活用して看取りを支える時代となった。在宅ターミナルケアは、療養者と家族が苦痛や不安がなく療養でき、出来る限り本人の希望に沿い、家族も悔いのない看取りができるよう多職種のケアチームで支える。ここでは事例を通して在宅ターミナルケアの特徴と必要な看護を学ぶ。

在宅看護での看護過程展開は、在宅酸素療法中の事例で病状や医療器械の管理に加え、介護負担や家事家政の不足などの問題に多職種で連携してサポートしていることを理解する。また、医療器械の故障や停電・自然災害など在宅でのリスクマネジメントを考え、在宅看護の特徴を学ぶ。

さらにグループでの訪問看護演習を通して、療養者・家族の気持を考えたり、訪問看護での望ましいマナーや接遇を学び、訪問看護ステーションでの実習に繋げる。

授業目標

在宅でのターミナルケアの特徴が理解できる。また、訪問看護での望ましい接遇を身につけ、在宅で生活する人その家族の特徴を踏まえた看護過程の展開の方法を理解する。

授業概要

1. 在宅ターミナルケア
   1）事例を読む～「在宅で終末期を迎える療養者…乳癌再発のＦさん」
   2）ターミナル期の療養者の理解
   3）在宅がん療養者の疼痛管理
   4）看取りの各段階と看護
   5） 看取りによる家族への影響
   6） 看取りで活用できる社会資源
2. 在宅看護での看護過程展開～「在宅酸素療法中のＴさん」
   1）情報収集は何から？
   2）在宅特有の看護問題
   3）在宅療養マップを書こう！
3. やってみよう！訪問看護演習
   訪問看護でのマナーや接遇を考える。療養者と家族の気持ちを考える。

【担当からのメッセージ】

在宅看護論の最終科目です。在宅ターミナルケアを学んだ後、ペーパーシミュレーションで看護過程展開したり、訪問看護演習で、実習に役立つ実践的な力を身につけましょう。

授業の進め方

講義、演習（ロールプレイ）発表、看護過程展開レポート

教科書　ナーシング・グラフィカ　在宅看護論〔1〕地域療養を支えるケア（メディカ出版）

参考図書　写真でわかる訪問看護アドバンス(Web 動画付)（インターメディカ）

評価方法　終講時客観式テスト・演習・看護過程レポートでの総合評価（100 点）
試験時間は時間数に含む

領 域	統合分野	授業科目	統合看護技術	単位（授業時間／時間数）	１（２８／３０）
開講年次	３年次	開講時期	通年	授業回数	１４回
担当講師名	専任教員		講師所属	福岡水巻看護助産学校	
特記事項	実務経験のある教員による科目			臨床（病院）での看護師の実務経験をふまえ臨床に即した授業・演習を行なう	

授業のねらい

「統合看護技術」では、既習の知識・技術を統合して、臨床技能がどの程度身についたかを確認し、実際の看護活動に即した能力を向上させることができる内容である。また、専門職業人として責任を持って行動する姿勢を培い、倫理観の構築にもつなげていくとともに、自己の課題を明らかにすることを目的としている。複数患者の受持や予定外の事象への対応などの場面をシミュレーションすることにより、チーム医療及び多職種との協働のなかで、看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解し、メンバーの一員として主体的に自らの役割を発揮するために求められる意識・能力を培う。

授業目標

複合的な事象において看護の知識を統合し活用できる判断能力を養うことができる。

1. 多重課題が発生した時の優先順位を考慮した判断できる能力をみにつける。
2. チームの一員であることを自覚し、自らの判断行動に対する責任を持つことができる。
3. 受け持ち患者の状態を把握し、看護の優先度を判断し、計画に基づいて看護実践できる。

授業概要

1. 統合分野と統合看護技術の概要
2. 課題事例技術演習

※資料配布し、文献を紹介

授業の進め方

グループ討論、討議、演習

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ（医学書院）

系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院）

系統看護学講座　統合分野　看護管理　看護の統合と実践〔1〕（医学書院）

参考図書

必要に応じて適宜紹介

評価方法

客観式テスト・技術テスト

出席状況・グループワーク参加状況は評価対象とする。

試験時間は時間数に含む。

領 域	統合分野	授業科目	国際看護	単位（授業時間／時間数）	１（１４／１５）
開講年次	２年次	開講時期	後期	授業回数	７回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

人や物、情報が地球上を行き交うグローバリゼーションを背景に、看護の対象は日本人だけでなく、多様な状況下にあるさまざまな国や地域の人々に拡大している。国際看護は、国や地域、民族間の保健医療・健康・看護の格差是正と、多様な文化・価値観の共存を目的とし、健康課題に取り組む学問と言える。

そこで本授業ではまず、さまざまな国の現状をアセスメントし、世界の健康課題について考え、どのような看護が必要かについて考えさせたい。そして、人々の健康には経済や社会システム、文化、価値観など文化社会的要因が関与していることに気づかせたい。

授業目標

1. 国際機関の役割や国際保健政策について理解できる。
2. グローバルヘルスの現状と課題について理解できる。
3. 人々の健康と、それに影響する要因を考えることができる。
4. 社会経済的背景・文化・価値観などの違いをふまえて対象を理解する必要性を認識できる。
5. 異なる背景を持つ対象への看護の方向性を考察することができる。

授業概要

1. 国際看護学の概念
2. 国際保健をめぐる世界の動きとグローバルヘルス
3. 国際機関・国際協力の仕組み
4. 世界の健康問題
5. 事例検討・発表

授業の進め方

講義、演習、グループ討論

教科書

系統看護学講座　統合分野　災害看護学・国際看護学　看護の統合と実践〔3〕（医学書院）
系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学〔1〕看護学概論（医学書院）

参考図書

評価方法

終講時　客観式テスト・演習・グループ討論（100 点）
試験時間は時間数に含む。

領 域	統合分野	授業科目	災害看護	単位（授業時間／時間数）	１（１４／１５）
開講年次	３年次	開講時期	通年	授業回数	７回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

近年世界の各地で、我が国日本で大規模な災害が多発している。日本においては、阪神淡路大震災、東日本大震災と超巨大地震の発生は記憶に新しく、その防災対策や災害医療・災害看護への期待は大きい。災害直後の現場では、医療施設や・設備、医療機器や物資などが不足し、非常に厳しい状況の中での医療を提供しなければならない。看護師が十分にその役割を発揮するためには、災害直後から支援できる看護の基礎知識や技術を身につけていく必要がある。災害各期における看護が理解できるよう身近な事例を活用しながら学ばせる。

授業目標

災害看護の基本的な考え方を学び、災害時における看護の方法を理解する。

授業概要

1. 災害および災害看護に関する基礎的知識
2. 災害発生時の社会の対応や仕組み
3. 災害時の被災者及び援助者の心理
4. 災害各期における看護活動
5. 災害時に必要な技術、倫理・教育・理論
6. 病院における災害看護
7. 対象別にみた災害看護の実践

授業の進め方

講義、DVD 鑑賞、グループワーク

教科書

系統看護学講座　統合分野　災害看護学・国際看護学　看護の統合と実践〔3〕（医学書院）

参考図書

評価方法

終講時　客観式テスト（100 点）

試験時間は時間数に含む。

領 域	統合分野	授業科目	看護管理	単位（授業時間／時間数）	１（１４／１５）
開講年次	３年次	開講時期	後期	授業回数	７回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

「すべての看護師は看護業務を管理している」という意識で看護業務に取り組んでほしい。

また、人として、また専門職としての倫理について考え、看護実践につなげてほしい。

授業目標

看護管理の原則と基礎が理解できる。

看護職者の倫理について理解できる。

授業概要

1. 看護とマネジメント
   - A 看護管理学とは
   - B マネジメントとは
   - C 看護におけるマネジメント
2. ケアのマネジメント
   - A ケアのマネジメントと看護職の機能
   - B 看護基準と看護手順
   - C 患者の権利の尊重
   - D 安全管理
   - E 看護職の協働
   - F 他職種との協働
   - G 情報
3. 看護サービスのマネジメント
   - A 看護サービスのマネジメント
   - B 組織目的達成のマネジメント
   - C 協働のためのマネジメント
   - D 情報のマネジメント
   - E 技術のマネジメント
   - F サービスの評価
4. 看護をとりまく諸制度
   - A 看護の定義
   - B 看護職
   - C 看護実践の領域と場
   - D 医療制度
5. マネジメントに必要な知識と技術
   - A 組織とマネジメント
   - B リーダーシップとマネジメント
   - C 組織の調整
   - D 組織と個人

授業の進め方

講義

教科書

系統看護学講座　統合分野　看護管理　看護の統合と実践〔1〕（医学書院）

参考図書

評価方法

終講時　客観式テスト（100 点）

試験時間は時間数に含む。

領 域	統合分野	授業科目	医療安全	単位（授業時間／時間数）	１（１４／１５）
開講年次	２年次	開講時期	前期	授業回数	７回
担当講師名	非常勤講師		講師所属		
特記事項	―			―	

授業のねらい

日々、変化し高度化していく医療現場には常に医療事故がおこる可能性を含んでいる。また、患者に最も深く関わっていく看護師は医療事故の当事者になる場面が少なくない。

この講義を機会に医療安全にむけての知識・関心を深め、実践できるようになってほしい。

授業目標

医療安全について看護師として必要な知識と考え方を習得することができる。

授業概要

1. 医療安全と看護の責務
2. 医療安全施策と医療の質の評価
3. 事故発生のメカニズムと防止対策
4. 事故防止の考え方
5. 患者に投与する業務における事故防止
6. 危険な持続的医療行為の観察・管理における事故防止
7. 療養上の世話における事故防止
8. 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因
9. 医療事故後の対応
10. 組織的な安全管理体制への取り組みとわが国の医療安全対策

授業の進め方

講義

教科書

ナーシング・グラフィカ　看護の統合と実践〔2〕医療安全（メディカ出版）

参考図書

評価方法

終講時　客観式テスト（100 点）

試験時間は時間数に含む。